

大道本論
全

112
25

東泉園齋			
冊	號	架	屬類

三子世三

014367-000-8

112-25

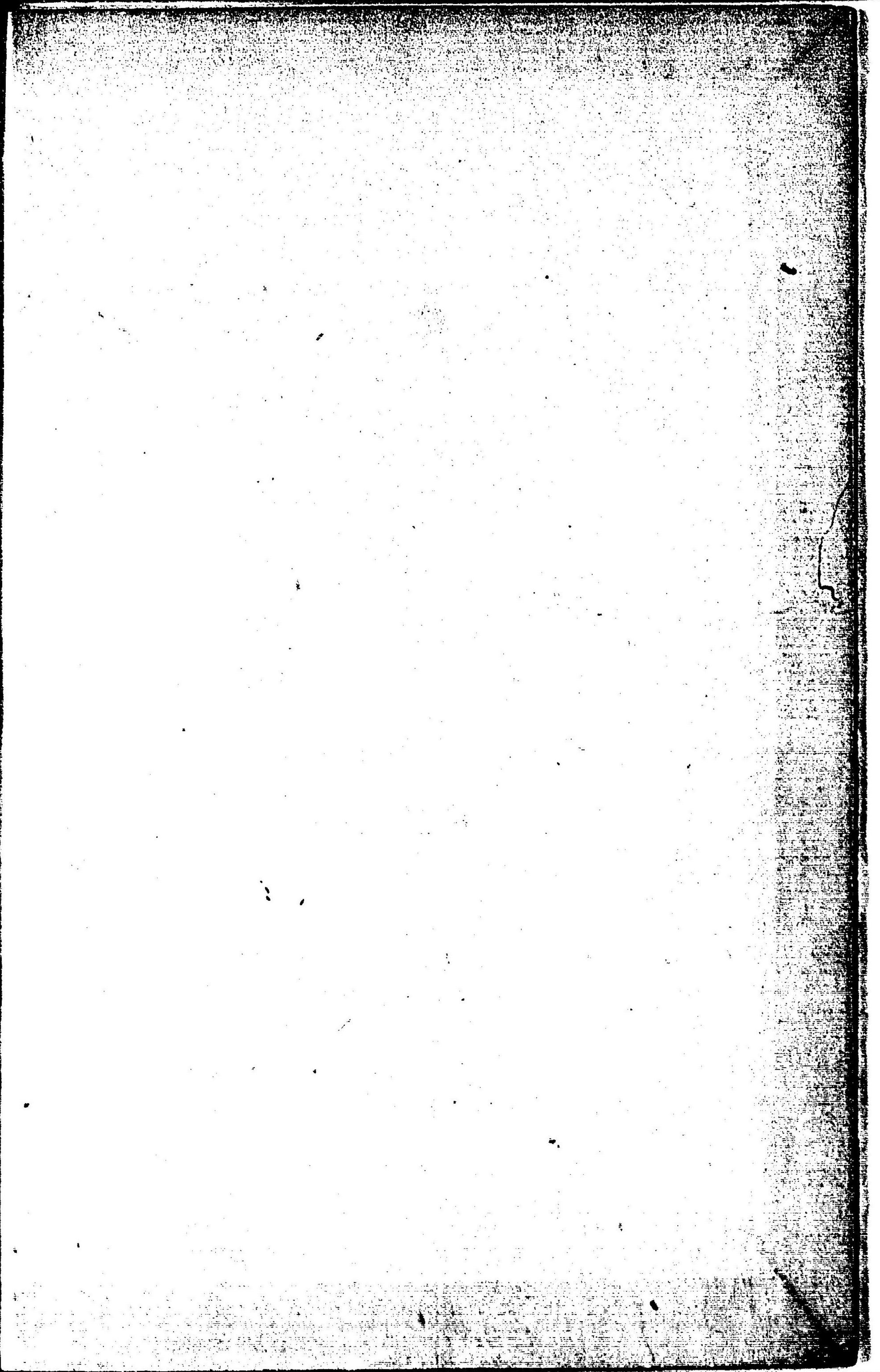
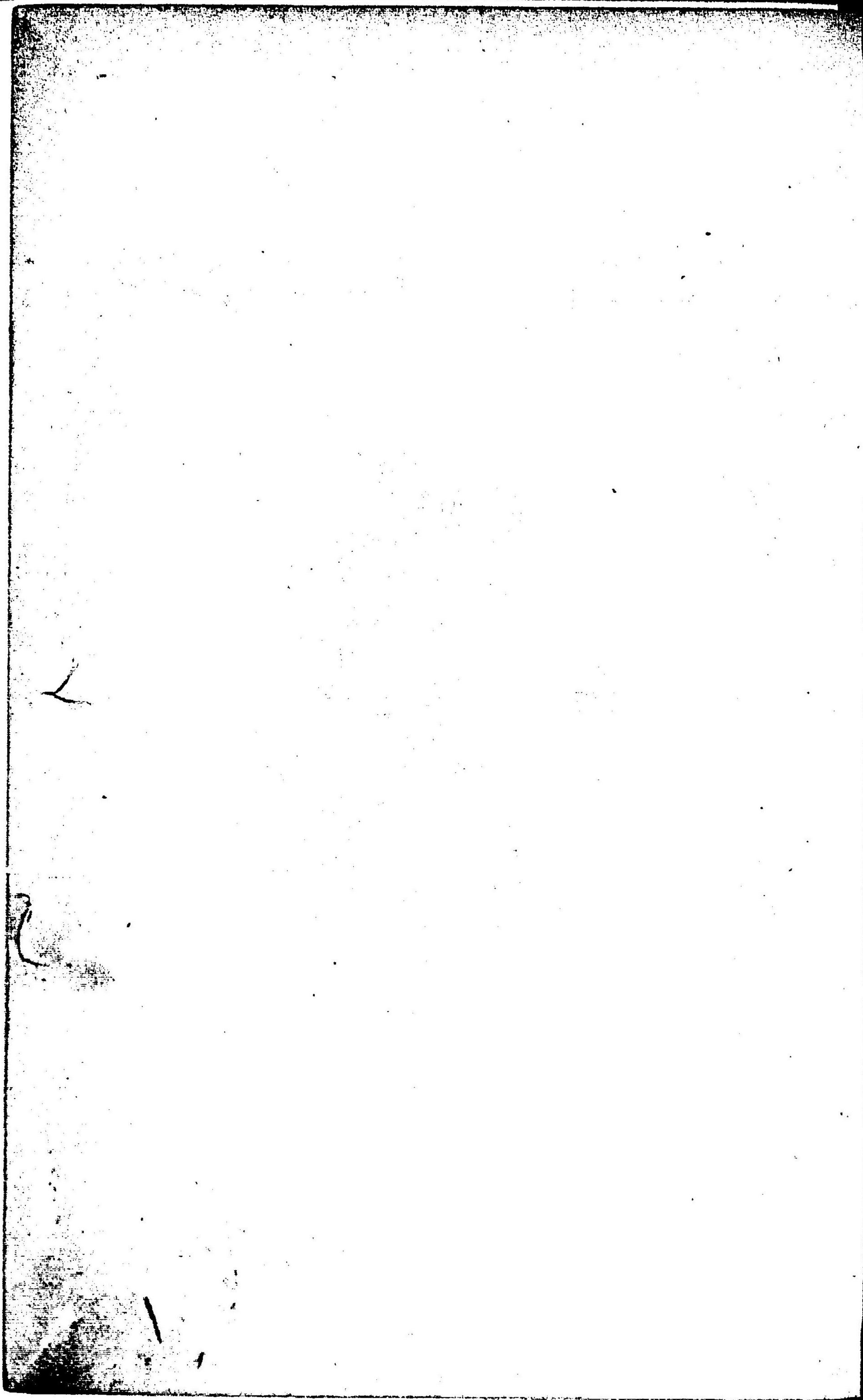
大道本論

常世 長胤/著

M7

ABB-0723

||||| ||| |||



№ 7019

帝

○大道本論序

○

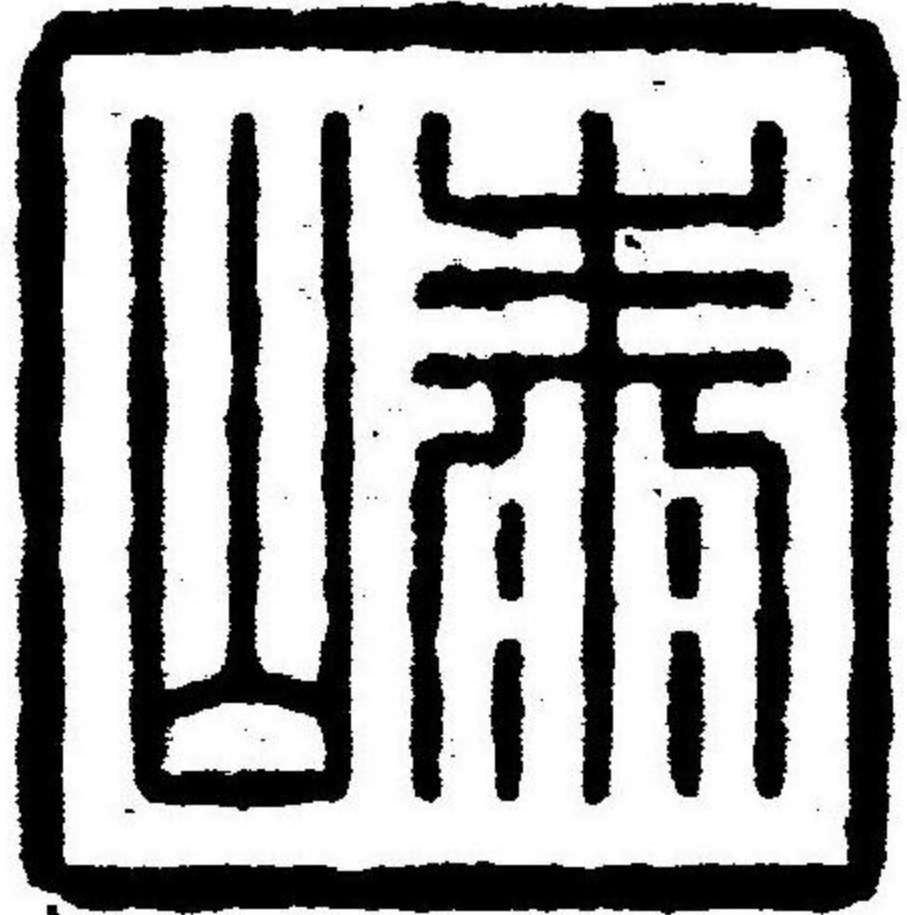


唯
一

○大道本論序

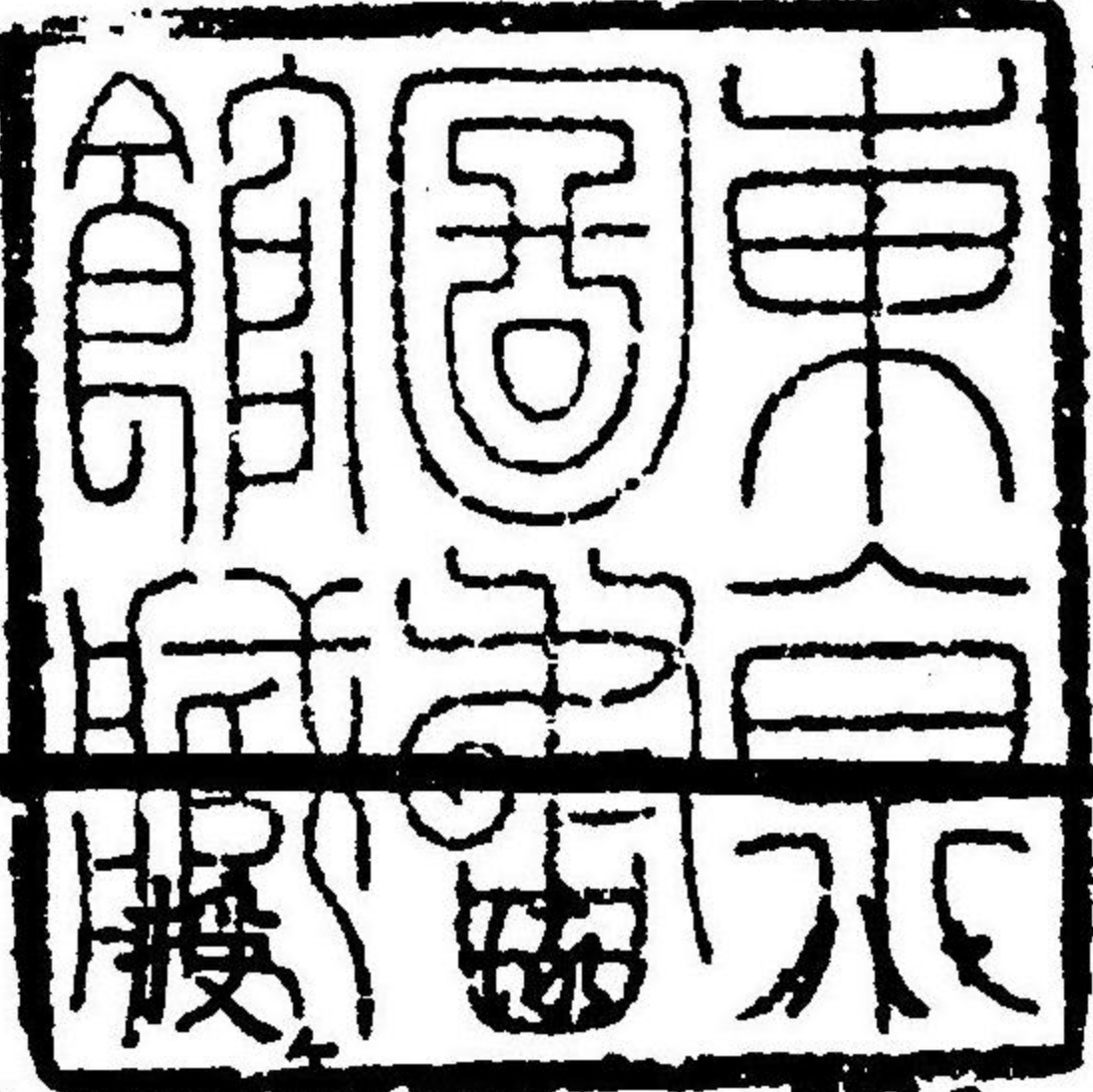
○

二品熾仁親王



大道本論

教部中録常世長胤謹論



隅^{スミ}あゝ吾が大君此神あ^スら。天下^{テンカ}よ教^{キョウ}牙^ガ給^{タマ}ひ^マあ^ハ給^{タマ}牙^ガ
大道^{オウダウ}ハ^ハも久^{ヒサ}堅^{カタ}の天津^{テンシン}御^ミ祖^ソ大神^{オホカミ}等^{ナリ}也。高天^{タカマ}原^{ハラ}よ事^{コト}始^{ハジ}て
給^{タマ}ひ^マし。最^{トモ}め尊^{ミコト}き御^ミ道^{ミチ}ふ^タれ^ハむ^ハ何^{ナニ}也^{ナリ}ある。そも^トく其^{ソノ}大道^{オウダウ}
此^{コノ}起^{オコ}原^{コト}を^ニ志^シを^シ如^ニ何^ニよと云^ハふ。太^イ古^コ天^{アメノ}地^チ未^{マダ}成^{ナラ}げ^テ也^{ナリ}し時^{トキ}ふ。
高天^{タカマ}原^{ハラ}よあ^ハり^マせ^シ依^ヨ神^{カミ}あり。是^{コト}を^シ天^{アメノ}御^ミ中^{ナカ}主^{ヌシ}大神^{オホカミ}と申^{マウ}ひ。
此^{コノ}を^シ或^シ人^{ヒト}此^{コノ}問^{トヒ}け^ラく。此^{コノ}大神^{オホカミ}ハ何^{ナニ}ある神^{カミ}の御^ミ兒^コぞ。己^ミ答^{コタ}
ふ。古^{コノ}事^{コト}記^シふ。天^{アメノ}地^チ初^{ハジ}發^{ハツ}之^ノ時^{トキ}於^カ高天^{タカマ}原^{ハラ}成^{ナリ}神^{カミ}名^ナ天^{アメノ}之^ノ御^ミ中^{ナカ}主^{ヌシ}

神次高御産巢日神次神産巢日神此三柱神者竝獨神成
坐而隱身也。とある如く。此獨神成坐而ハ。おれからあ
りまゝして云ふ義の言葉。其を今此俗言は誰が爲に
ともあく。事物れあきるをさして。ヒトリデニデキタ。又
ヒトリデニナツタ。など云ふをも思ふべし。然るを記傳
お男女耦てあり給を交て。あゞ一柱づゝ。おれませる神
をけして。獨神成坐而どハ云ふ。と云へは。違り。其
たまは高御産巢日大神ありまゝして。次は神産巢日大神
あり給ひ。まゝ此より以下此神等のありまゝ。叙も皆
然ありて。其間お次の字を置き。能々心を潜を味て

男女耦て成給をげる事をあるべし。まゝ史傳は神産巢
日大神は女神よまゝよ。字悟にあら。猶記傳は説を
採りも誤。然ハあるまじき。高御産巢日大神より以下
此神等ハみあ。天御中主大神は奇く妙ある。神量おま
て。生まゝ。おとを云ふも更あまじき。記おを。眼よ字
ち見たる處を以て。大らうお傳子と。おものなり。まゝ隱
身也とある。最初よ。幽冥に坐しと。お傳子あるハ。天
上ハ既く。幽顯は差別ありし事ハあらまじき。
はて此大神を始よ。幽中の幽におまゝ。造化首を
作し給ひ。諸此神等及此大ある。天地をさ。子。鑄造り給ひ

て。今も猶萬事此大本を統知給ふ。以て奇く妙ある大神あり多也。はまば御中主と申は御名は義ハ如何かと云ふ。ふまづ御を所謂尊稱。中主を世中の主諸神は中の主とし。主宰し給ふ神といふ義よて。をばてをましをまませるよ。此御名々。高橋氏文ある景行天皇は詔る。大倭國者以行事負名國オホヤマトクニハキタと宣する如く太古ハ神人ともふ行事を以て。名ふ負ふ例あゆまを思ふべし。

但しあまより以下此神等は御所爲も。御名よ依て解去と。存し同ト多まは。其心して見るべし。

然まば此大神を萬神萬物此大御祖めて眞の至尊おあむ

まし／＼ける。さて此大神は奇く妙ある御功德よよりて。

はづ高御産巢日大神。所謂神次は神産巢日大神。所謂神生

出給たり。此大神は御名ハ。高御も神め所謂尊稱。産巢日ハ。

生産靈の義ふて。互に産靈は御功德を持分まりて。全ら天

御中主大神は御功業を裨補給たり。其ハ顯宗天皇紀ある

月神の御誨よ。我祖高皇産靈有預鑄造天地之功。と見え

る。預鑄造天地と云。高皇産靈大神は天御中主大神は副て。

天地を鑄造給たり功績ありと云ふ意の御誨也。はて神

也云ふ稱も。加久利身は久利を略きて。加美と約する言ふ

て其證ハ古事記也。五柱別天神の終は。隱身也と二處ある

其を世降て
遙後加美
ふハ神字を
當人物は
上字を當た
るに神祇は
ハ伯彈正ハ
ハ伊職ハハ
大夫府には
督寮ハ頭
司ハ正國
な守など
各字ハ別カ
れども皆カ
ミと云ハ貴

人をちして
オカミなど
云ふもと
よ長たる人
を尊む古意
古語の殘ま
る。

隱身也ハ。加久利美余麻須と訓むばき書法にて。是則加美
と約たる言葉の本之。故其神等ハ始より幽中に在て。常に
御姿を顯し給てぬ故。他神等よ此を指て隱身と申を
るを。次々の神等おも及ぶしぬる稱之。然るに天御中主大
神ハ。天地大主宰の大御祖にて。比類なく尊き大神なまバ。
幽中ハ幽ハ特更高く深く大座坐以こと決し。其ハ神代卷
る。伊邪那岐伊邪那美大神の蛭子と淡島を生給ひし時。
か、依不良ぬ御兒ハ生坐るハ。ハ加あ依所由ぞと疑ひま
して。天上ハ參昇て其よ一を。天神ハ窺ひ奉り給む一。天
神も其所由をバ知看みて。太占のト事を以て占問給ひて。

其所由を委曲ハ誨一給ふと見えたり。此天神ハ主と産巢
日、大神ハ係とる言葉ある。最も尊ま此大神の知看一給
てぬ事を。占問給ふ。其上ハ天御中主、大神ハ大御心を。
占問給ハば。孰の神ハ御心を問ひ給ひ一とせむ。まハ神
代卷。天兒屋命。主神事之宗源者也。故俾以太占之ト事而
奉仕焉。とある如く。太占之ト事ハ神事の本。其神事を頓て
萬事ハ本ハ依を以て推察奉る。其神事ハ既く産巢日、大
神の御親ら。天御中主、大神を齋き祭給するガ始。よて。其神
事を次々ハ。授給ひ一あらむとぞ思てる。けまハ古事記
了。天照大御神坐忌服屋而令織神御衣之時。と見え。まハ神

代、卷よ。天照大神方織神衣居齋服殿アマテラスオホミカミマサニオラシカムミツノマヒキイハタドノミとあるも。新嘗祭の幣ニヒナタマフリ物を織給ひて。其祭式マツルシキを移せるぞ。顯因カクシケ此大嘗新嘗祭ニヒナタマフリふハありある。

但し古典イミヘン了天照大御神ニヒナタマ此新嘗聞食ニヒナタマとあるも。大御神を尊び奉まざる餘コトナシふ。少く事實コトノマコトに違ふる傳様ツタヘみて。實ハ御親ミコトら聞食ミコトが主ミコトよを非アラぶ。天御中主アマノナカヌシ大神を齋イハき祭給ひて。高天原の新嘗祭タカマツラノニヒナタマあると。論コトバふ迄も何らば。然るを普通此學者流コノガクノリウも。新嘗聞食ニヒナタマとある言葉コトバよ此コノ泥ドロて。顯因カクシケの新嘗會ニヒナタマハ。天皇ミコト此新穀ニヒナタマを聞食ミコトが主ミコトふて。神を祭イハるハ末スエあり。あど云ふ類タガヒハ甚イニトキ非言ヒガコトく。其ハ今も大嘗會ニヒナタマ此年コノトシふ當トキ

てハ既イデくより御占ミウラシを以て。最イトも嚴重オホソカに悠記ユキ主基ヌキ此因コノを定サむ。萬の事物モノを忌イハむ清スむる状サマを以ても。新穀ニヒナタマ字嘗スして神祇カミを祭イハるが。主ミコトあるふとをあるアる。まご中臣ナカトミ壽詞ユキゴトハ。右の事を専マカら。天皇ミコトよの之係カケは處トコロ此文コノコトバハ。彼コノ豐明トヨアカリの時トキみ。天皇ミコト此大前ニヒナタマ了壽ユキ奏マツルせる詞コトバあるが故ユヘみて。是コトと彼コノやハ其意コトバ別ヒナあり。思オモひ混マシふケらズらズ。

令コトバ義解コトバふ。大嘗ニヒナタマ謂イハふ。新穀ニヒナタマ以テ祭イハる神祇カミ也。朝アサ諸神カミ之ノと見えざる。至尊ミコトハ。撰者コトバ此意コトバハ何ナニもあれ。其事コト實マコトに至ミてハ。正ただしく天照アマテラス大御神ニヒナタマあると論コトバあり。其コノを續ツ神皇正統記ニヒナタマに。悠記ユキ主基ヌキの神カミ殿ミヤを神膳カミノマシを儲タマふ。大神官カミノミヤを勸請コトバ申マツルされて。御みづのらま

於りとまふ御事あり。と見え。まこと代初和抄、大嘗の條キ。秘事口傳はぬくなまま。あやまくかまはまる事はとまま。主上此志ろろ老ら外わも。時の關白宮主あどの外を曾て志る人なし。ほささ志く天照あおかん神をおろろ奉りて。天子みづうら。神食かを志、志申さる、事あまま。一代一度此重事。あままよままく志らららど。何な如く。今も大嘗會新嘗會あ。宵よみて天照あ大御神を至尊すせて齋いき祭まつ給たまひ。曉あハ諸神を相嘗あ祭まつ給たまふまと。少ちも古こあ異いあるまとあし。其在高天原たき祭まつ給たまふ御規則おんぎを。其儘ま移せる神事あるが。天上あ地と

本末此別わかある故ゆ。至尊すと志らる神か違ちがふまぞ何なりまる。祈年祭ねんまつ詞こと。天あ社やしろ固かた社やしろ神等かみたちを齋いき祭まつ給たまふまとを。神漏岐神かみろぎ漏美命ろみのみこと係かて奏ま。まま中なかつ臣おみ壽詞ことも。天あ押雲根神おしぐもねのかみ此こ水取みづとり了昇あ給たまふ時とき。此神漏岐神漏美命かみろぎのろみのみこと。御親おんおやら天あ玉串たまぐしを授たま給たまひて。其呪詛かたりの神事かみわざも至いたる迄ま。慇懃ねまご傳たづ給たまへる由見えとるま。己おの命のみこと此事始このこと給たまる事ことあるが中なあも。最いめ重事おもは極たここああ故ゆ。御親おんおやら授たま賜たまへあらむ。さままま今いま世よ神事かみわざを始は免ゆる。何事なにことあままま奥儀おくぎも至いたてま必かなず。其人そのひとを得えて直ただ傳たづるま。あとの多おほりるま。上あり云いふ心こころばあはあ残のこるまるま。斯かて其天そのあま御中主おんちゆうす大神おほのかみ。二柱ふたはしら産靈うぶたま大神おほのかみは御功德おんこうとくもまりて。大虚空おほそら

此中よ其形ハ如何イカもと言ひがさき。一物あり出さず。は
て其一物ハ清スミある處を萌騰モエトオリて天とあす。其跡アトも残りて濁ク
まる物ハむら〜や。浮ウカき漂タビトヒてあり〜が留トビりて即トち地と
あす。又其地より垂タリ下れる物ハ後ノチも夜見ヨミとあまゆ。夜見と
い。此一物のあす出さぬ。高天原タカマノハラ天御中アメノナカ主大神ヌシノカミ此コノは
一柱イツツツ既スデくなりま〜、も専ら同トク。其一物の剖判ツツて天地。
夜見の三ミツとあまゆ。又造化ツクリ此三神ミツノカミは生ナま〜。次第ツギと
同じ心ココロをす。斯成ナリる間マも宇麻志ウマシ阿斯訶備比古遲神アスカヒヒコシ。次ツギは
天之常立アメノトコダテ神生カミナリ出給イダサす。此神ハ亦名マタナを天之底立アメノソコダテ神とも申
て。彼萌騰モエトオリし物の上底ウヘソコも立タてて御靈ミタマ幸サチひ坐マす。天アメ固ツツハ鎮シヅま

あす給イひぬ。天アメ以上イサ別ワケ也。次ツギは固ツツ之常立ノトコダテ神生ノカミナリ出給イダサす。此神コノカミを亦
名ナを固ツツ之底立ノソコダテ神とも申マす。彼清スミて萌騰モエトオリし跡アトも残りて。濁クまる
物のむら〜や。浮ウカき漂タビトヒる物ハ下底シモソコも立タてて。御靈ミタマ幸サチひ
坐マす。顯固ウツクツツの鎮シヅまとあす給イひぬ。

但し夜見固ヨミツツハ。夜見之底立ヨミノソコダテ神といふ神の何ナニとある
は々れど。此固ツツも用ヨウあ々まきバ。傳ツタへ漏シせるなるはし。かく
云イハふ所トコロ由ヨむ。顯固ウツクツツに何ナニれ事物モノも。悉スベクく天上アマノも起オキりあふと。
今更改イマカヘて云イハふ迄マデもあふ。其天固アメツツハ天之底立アメノソコダテ神坐カミイマスす。御靈
幸サチひ給イす。此コノは効タビて顯固ウツクツツも。夜見固ヨミツツも。底立ソコダテ神カミまし
て。御靈幸ミタマサチひ給イす。ハ應オウぬ謂イハさく。あ、を以モて。固ツツ之底

立神也。今も此顯因レ坐レて。御靈幸ひまふとハ云ふあり。又天地互ニ。底立神のまゝはひを以て。夜見因レ此神レ坐レまはぬ謂レ此レ支レ理レを曉レるレばし。或レ因レ之底立神ハ。夜見因レ垂レ下レると、もふ。彼因レ下レりレと云ふ説もあまど。然らむ此因レ底立神レ坐レまはぬ謂も亦なきあとし。其ハ古事記伊邪那美大神の夜見因レ到レませる條ふ。且具與黄泉神相論トと見えさきレバ。あまよめ以前ニ。彼因レも神等レたまレを。考レり悟レ得レざるかられ。誤レりぞレめレたれ。其事別レ委レ考レへ誌せる物あり。

次ハ豊雲野神生出給レ牙レ也。此神レ亦名を豊組野神。豊留野神とも申レて。豊を例レ此算稱組野ハ組主留野を留主レ此義レて。彼浮き漂レてレ一物を留レ志レて。組寄せ給レ牙レる由レ御名レ。次レ宇比地邇神。次レ妹須比智邇神生出給レ牙レ。此宇比地邇初レ埜邇ハ根レ通レふ例レあまレバ。初レ埜根レと云レ義レて。彼豊組野神レ組寄せ給レ牙レる一物を初レ々レき埜レ爲レし給レ牙レる由レ御名レ。まレ須比智邇ハ。砂埜根レといレ義レて。彼宇比地邇神レ初レ埜レ爲レし給レ牙レる一物を砂埜レ爲レし給レ牙レるよレ此御名レ。

神代卷。天地未生時。譬猶海上浮雲無所根原。其中生一

物如葦牙之初生。泥中也。便化為人。號曰常立尊。とありて。
天地ふあるは支物に始を。泥中ず葦牙に生をむるは
譬牙の味も。此泥ハ何物よども既くおれるが故に。其ハ
此後伊邪那岐伊邪那美大神に。蛭兒を生給ひし時。葦
船に載て流し給ふと見えさきハ。葦ハ當初より何と
あしと明らかく。はてその葦も今も。砂泥はあといふ味
ふ。生るあををも思ひ合せて。國土にふるる状をさき
ふはし。

次は角杵神。次は妹活杵神。生出給ふ。此神は御名の義ハ。
角齧生齧ふて。御所爲をかし須比智邇神の。御靈は幸よて

爲さる砂泥を齧結給ふる神に。其は杵と云ふも。泥よまれ
土よるれ。齧結て。其物を保つよし。此名に。今め海中河中
杵を打立て。浮る。砂泥を保とあむるあを。思ひ合をば
し。次は意富斗能地神。次は妹大斗乃辨神。生出給ふ。此意
富斗能地神は御名の義ハ。意富も地めとも。例は尊稱
て。大地乃遲神に。此神を彼角杵神活杵神に。齧結て保てる
砂泥を。大地に連給ふ御所爲ませり。其妹大斗乃辨神の
御名は義也。大地邊神よて。彼意富斗能地神の。大地に連給
ふる處を。まは潮あど字も分ちて。稍々大地に邊ふ爲し給
ふる神に。次は菘母陀琉神。次は妹阿夜訶志古泥神。生出給

牙也。此神此御名の義也。地面足神にて。彼大斗乃辨神此大地邊トベふ爲し給する地邊トベ此面をよく足タラ一整へ給する義也。今も海面ウミノオモ河面山面里面おど云ふ字思ふべし。

但し伊邪那岐伊邪那美大神より以前イナハ。图形カタガタ此有りし證アトシ也。古事記コトワザ記ふ。天神諸命以詔伊邪那岐命伊邪那美命二柱神修理固成是多陀用幣流之固ハシラシメニツクリカタヂセトコノタダダコヘルクニラフとある中是とは一給する物ハ。則固あるおとを思ひ。まコ此處コ修理固成此字を假カて用ひらまコ一。眼メ字お多置タて。下シ云ふおとを能く見て味ふべし。然も何れども。淤能基呂島おどハ右ミ云ふ限リお非ズ也。

其妹阿夜訶志古泥神此御名の義ハ。奇惶根神オカシムネノカミにて。彼淤母陀琉神此地の面を熟ユく足ス一整ト牙給へる其地を奇オカおかしクおく爲ナ一給ひて。頓トて固カタお固カタする活用を爲ナむとを係際ケイに至らおを給する神也。其も今も心利ココロトクく物モノをるを愛メて。かコお死シ兒コまコかコ一おまコ人ヒトあコど云ふ言コトはコ何ニもコえコあコ。其事物を能く爲ナし得ケる所トコロ爲ナを。稱ホする言葉あるを思ふべし。まコべて固之常立神より。阿夜訶志古泥神迄十柱神等ハ。彼形カを如何イカニとも言ひがコあコき。一物モノよコつコまコて。其物を次々ツギツギ御靈ミタマ幸トクひ給ひて。其を頓トて固土の形カタお造立ツクリ多シ。稍シ々シ何ニやコるコかコ一おく爲ナし給する神カミお坐イり故ユ。固史カタシと立タて係ケ神代カミヨ巻マ。固之

常立神よズテ叙ユるも所由ユあるまこと。然レもあれども古典
小。此神等の御所レ爲フ此少イも傳ハらげると。如何ニよと云ふ。幽
事ゴト此中ニは幽事あるが故レ傳ハ牙漏モせはる。次ニは伊邪那岐大
神。次ニは妹伊邪那美大神ニあてませり。あハる天神も後ニ
此ニあやもちて。伊邪那岐命。伊邪那美命ニ柱大神ニは。是ニ漂
牙ヲる因ヲを修理固成ト詔シて。天瓊ヲ戈ヲを賜ヒて言寄シ給フ牙ニ。此
を專モら此顯ヲ因ヲを修理固成トめ給ハはまき。君職ヲを依ヒ給フ
あハあむあり々ハ。故ニ柱大神ハ。天神ハ此勅命ノまふく。
此因ヲ天降マして。はづ男女ハ道ヲを始メて。因ノ八十因ノ島の
八十島ハ。因ノ魂神ヲを生ク給フ一ニ故ニも。各モ各モ其因ノ々島々

は御魂ニとありて。主宰一給フは。

上ニ云フ牙ヲる。宇比地ニ通シ神ハ處ヨリ是ニ迄ハあとも。まづ人
とあるはまもはる。母の胎内ニ寓スて。十月ノ間ニ萬
足ヲ整メいて。世ニ生ル出ルと專ラ同じ心ニむ牙ヲあれば。下ニ云
ふ八神ハ御功績ノ處ニ互ニ見合テ心得ハし。

是レより地氣次第ヲ厚クなシて。因ノ土ニを浮キ漂フあトあク
能ク成シ整メひ一みぞあり々ハ。はテ其因ノ魂ハ神ハ眞盛ナル。御
稜ヲ威メて。潮沫水沫ハあト凝ル。因ノ土トあれる類モあ
る。神名式ニ生島巫祭神二座ニ並シ大月ニ生島神足島神トある
を此因ノ魂ハ神ニて。亦ハ名ヲを生ク因ノ足因ト何モも二柱ニ稱スて。朝

延カ小重く祭給ルる。

古典ニ男女ニ柱ニ大神ハ。罔ク々ク島々海河山を生給ふ
と有るを。世々人等を左子右小沙汰をつまぎも云ハ
當コりと思フ説ハ。一もあるまとあし。其故を人を始を。
罔土及海河山野草木小至る迄。世間ニ生ト一活るもの
小。何も魂ハあまを有るまやあく。魂ハ則其物ハ主宰
あレバ。魂を直シ其物小云ハ。其物を直了魂小係て云ふ
も。互ニ包テ云ふ例なまバ魂を直シ罔土と云ふも難カあ
きあとシ。其例を神代卷小。日月既生まシ次生海次生川
次生山々有るも。直小日罔月罔。又海川山あとを生給了

係小を有らズ。こゝあ其主宰ハ神及魂を生給了るを。直小
其物小係て傳了るもの也。其を海ハ御魂ハ。豊玉比古
神豊玉比賣神。河ハ御魂ハ。速秋津日子神。速秋津比賣神。
山ハ御魂ハ。山祇神あるまと論なク。古事記崇神天皇ハ
條小。又於坂之御尾神及河瀬神。悉無遺忘。以奉幣帛也と
あるま此らハ神々迄。残る隈あく祭給了る也。猶云ハ
風ハ御魂也。志那都比古神志那都比賣神火ハ御魂ハ。火ハ
結神。金ハ御魂ハ。金山毘古神金山毘賣神。潮ノ御魂也。鹽
椎神。水ノ御魂也。彌都波女神。土ハ御魂ハ。埴安毘古神埴
安毘賣神。草ハ御魂は。草野姬命。木ハ御魂也。久々能智命

よて。大殿祭詞云。屋船久久運命是木靈也。と見え猶此御
魂ハ豊宇氣比賣命よて同詞云。屋船豊宇氣姫命是稻靈
也。とあるが如く。こゝ其御魂ありて。其物を其物とら
る給ふよぞありたる。ばて其御魂此像ハ如何と云ふ。
幽顯此隔あるが故。眼了あそ見え祢。必支神人此體ハ。
異あるあとなまを。云ふ迄もあらば。然もあまども。時
臨て變はさすハ。今云ふ限。あらばる。斯て古事記
次生伊豫之二名。鳥此。鳥者身一而有面四。每面有名。云次
生筑紫島。此島亦身一而有面四。每面有名。とある。こゝ
其因魂神は御身一よて。御面は四あるを云する。萬

葉二玉藻吉。讚岐因者因柄加。雖見不飽神柄加。幾許貴寸
天地日月與共。滿將行神乃御面跡。次來。とあるをも思ひ
合を考し。ばて其御面は隨て四因は別一も。奇あく妙あ
る神業よぞありある。まゝ其因々島々此男女は別きて。
亦名あるも。専ら其因魂神は男女はあるが故よて。あ
其因土了亦名のあるふを非ば。
其を朝廷に齋き祭り給する此こあらば。諸因了因靈神
社と云ふが多くある中よを必支あも。右了云ふ因魂神は
中は一神を。一因は因靈神社と稱て。祭まはもあるばし。
但し因靈神社と云ふ了三は差別あり。一ふを上よ云す

依國魂神を祭まるが有り。一つは大神主大神此荒魂と
まは。大國魂神を祭れるがあり。一つは既に當國は人民
を率て。其國を修理國を給する神を。其國靈神と稱て。祭
まるもありて。委しく云ふ時ハ。其御所爲は幽顯此差別
あ依之。其は第一は云する。國魂神也。所謂國土の靈魂は
て。其主宰なきは。おは於ら。其御所爲も幽了つき。ま
第二第三は云する國靈神也。既に國民を率て。國土は眼
み見ちる處を經營國を給するは。おはづから。其御所爲も
顯了たくりあり。

然して後。風。火。金。水。土。此神等。及八百萬神。まは萬物も至

る迄。盡く生えあし給ひおれむ。其神等亦各も各ぬ其分々
お持分まゑて。御祖命此御大業を。助け爲し給ふ。はて天を
清くして尊まもれおれば。君は如く高き位あて動かぬ。地
を下し位して臣の如く働き周り。まは夜見。國ハ其下し位
して。地は就て旋て働くと。臣も上下此差別あるが如し。
はまは。惟神は大道を。天地は先ごちて起原するもの
おして。それ即て君臣は道もあむありある。此君臣は大本
とる道分きて。父子。夫婦。兄弟。朋友等の。道々も立し。か
まは。上は云する天神は詔命を。此漂する國を修理國を成
せと。詔する中は是等の道々迄も。盡く含するおとを。知依

はし。其故を男女二柱大神此互カミ子愛ミくおもわしを去イダて。少コも男女此理コトワリ不違タガひ給たまへばるハ。更さらふも云いふま。

但し始メを女神メカミ此言コト先サキごちて。不良フクハヤ御兒ミコを生なま給たまひし。男女交通オトメトコトメの始メをゆて。御心ミココロ於お支し給たまへばる御過ミトガあれば。今是しを左サ小コ右ミダる。沙汰サタする限かぎりあらば。

其御兒ミコ此未コト々々子こ。至いたる迄まで各おのも各おのと心こころを睦なごび力を戮つとめて。御祖命ミソトノミコトノミコトの重おもき御職ミツクサを相祐サウす給たまひて。国土クニツチを經營ツクリカサ固かたまゑしを以もつて知るはし。斯しかて後のち子こ。伊邪那美イナメ大神オホカミハ。夜見ヨミ罔ミ小往イナまし。て。其罔ミを知看しる見み事こととありぬるも。ままと天神アメノカミ此幽カクレる量定ハカリを給たまふ。御心ミココロ子こあむらひける。或ある人間ヒトノミヤ々々らく。彼罔ミの有状アリサマハ。古

事記。伊邪那岐イナギ大神オホカミ此御言ミコトノコト子こ。吾者アハ到いた於こ伊邪志許米イナシホメ志許米シホメ岐穢イナギ罔ミ而在アリ邪理ヨリと見え。ままと蛇室屋ヘビノムロヤ蜈蚣室屋ムカデノムロヤ蜂室屋ハチノムロヤ。ああと見え。とるを始メを導饗祭詞ミチアヘマツリノコトバ子こも。根罔底罔ネノクニソノクニ與ヨ麤備アラヒ疎備ウツヒ來物キヌモノ。尔ニ。相率相アヒマヒヨリアヒクニ口會事無アヘタマフコトナク。とある如ごとく。上うへもああく汚よごく穢よごををし。ままと罔ミ。かかる尊たき大神オホカミ此往坐イナるハ。更さらふ心得こころ加かとく。又古事記。伊邪那岐イナギ大神オホカミ此夜見津平坂ヨミツヒラサカ子こ。千引石チヒキイシを引塞ヒキサて。言コト戸ドを度ワタし給たまふ下したま。伊邪那美イナメ大神オホカミ此申イナし給たまへく。愛ウケき我那勢命イナセノミコト。かかくし給たまへい。汝罔イマレノクニ此人草ヒトクサを。一日ヒトヒ子こ千頭チカサ縊殺セリコロむと申し給たまへい。ままと伊邪那岐イナギ大神オホカミの詔ミコトノコト。愛ウケき我那邇妹命イナニセノミコト。汝然イマレニし給たまへい。吾われを。一日ヒトヒ子こ千五百チイホ産屋ウツヤ立たてむと宣のたまへい。ままと給たまへい。吾われを。一日ヒトヒ子こ千五百チイホ産屋ウツヤ立たてむと宣のたまへい。ままと給たまへい。

以て一日子必死千人死。一日子必死千五百年生るゝと
るハ如何。己答ふ。彼因を禍神禍物ハ本府あるを。其主宰
とありて。此顯因ハ荒び疎び來むとまら。禍物をまつり鎮
免て。顯因ハ禍事を防禦ぎ給むとの。神策あるはく推量り
奉らる。又夜見津平坂にて。伊邪那美大神ハ男神ハ對て。汝
因ハ人草を。一日子千頭縊殺むと宣するを。所謂事ヲ觸て
の御誓ハ詛言にて。男神ハ長く離れ坐るを。深く悲こ
給ふ御心ハ切ある所より。かくを詔ひ一にて。譬牙ハ一旦
ハ忿と云ふ子等一く。後世子至る迄。然思わしを志坐る子
をあらび。何をきく萬物を生て給ひて。世の始を爲し給

ふ伊邪那美大神ハ俄子惡神とありて。世人を縊殺し給ふ
よ一のあらをやも。後々迄も然思わしを志坐るを。世人ハ
大抵苦瀬子落ての之死あむもれぞ。宍うあふく。其を縊
殺むと宣するふて。平常ハ殺し狀子あらざるを。思ひ
明らむべし。然ハあれどもかゝり尊き大神の。歎き悲と給
ふ餘る。其荒御魂ハ凝別きて。成坐るガ。菟理比賣神にて。此
を物を縊殺はよし御名を。其を今世子首縊あどして。變
死せるものゝ狀を以て考ふる。右ハ詛言子應する事の
あるハ。こあけるはき幽契ありて。其別御魂とまは。菟理比
賣神ハ御所爲にて。伊邪那美大神ハ御所爲ふをあらぶ由

をく世俗説子惑ふふとあるま。神名式子。加賀、国石川郡。白山比咩神社とあるハ。中子此菊理比賣神を齋き祭るといふ也。其て此神やても御心を取て。能く祭り鎮を奉らむ。禍を變て幸牙給むと云ふも更あり。まゝ東子伊邪那岐、大神。西子伊邪那美、大神を祭まりと云ふも。いぞ深ま所由あるまとみして。其菊理比賣神の不良ぬ御所爲を。神和し。み和して。禍事を防禦ぎ給むと此神量みて。男女二柱、大神此。東西に相殿ふて鎮に坐るあらま。

大抵穢多は産土神也。白山神なるも。此菊理比賣神にて。彼を本より。畜の死皮を剥て。産業を爲し居まバ。其畜及

万物此死るぶとよ。利を得るが故。此神を祀て恩頼を。あふぐあらむ。和名抄子。屠兒和名息止利。殺生及屠牛馬肉、取賣者也。と見えとゆ。仁賢天皇紀子。是歳日鷹吉士還自高麗。獻工匠須流枳奴流枳等。今倭、国山邊郡。額田邑。熟皮高麗。是其後也。とある。熟皮を則穢多ふて。大抵是ら此蕃息し。末々此。諸国を廣むと。も此あるま。

斯て伊邪那岐、大神也。女神の詛言子。言勝給子る時也。御魂此凝、別きて。成坐るが。豫母都事解之男神子て。此を黄泉神の詛言を。解き給ふよ。此御名也。然るを顯、国小生、出る人。人此。一度を必死あて叶てぬが常と定まら起原ハ。右此

詛言ふ因る如く思ひ。或ハ世子死る人よりも生る人ハ
稍多加るハ。男神ハ言勝給牙御誓ふよる事と此思ふ
也。非常ハ死生を常の如とす。取違牙と依過也。其ハ女神
ハ縊殺むと詔牙るふて。非常ハ係る御言なる如とあるけ
きバ。男神ハ御言も是ヲ對牙て。非常ハ係はるやと云ふも
更ニも。然らばとせむ。常ハ死も既く神代ハ始也。皇御
孫命の天降坐る迄ハ。幾萬歳とも云ふ傳き間了。此顯國ハ
神人ハ死する如との書見えざるを始を昔初生坐る
國津神等も。御天降ハ後了至ても。死給牙る如と此曾てあ
きハ何よぞや。さて保食神及天若彦あどの。不意身罷り給

ひ一類也。常子死る例ハ爲しがとある。そもく生死ハ本
ハ。最も尊き造化神ハ幽る量り定を給ふ所あるが。中にも
生を表あるから。天地初發ハ時よ也。次第子神等の生坐
るハ。此をなめ。然るも死を裡あるが故也。遥後ハ皇御孫命を。
天下の大君也定て。天降一給ひて。天地ハ往來を断ち給ふ
時也。顯國ハ人種の。一度ハ必び死る如とを。常と定を給牙
るよとめて。死也給ふ如ともある。天國もて生坐し。天神
ハ御兒とまは。皇御孫命をら終ハ崩御し給牙る也。故ハ
こを以て。天下ハ生出る人々ハ。悉く是ハ從ひて死る如と
やを定まり。斯て其國神也。顯し御身あがら。次第ハ幽冥ハ

屬^{ツキ}て御身を隠^{カク}し給^{タマ}ふる也。

但し神武天皇此征伐給^{タマ}ふる長髓彦。或ハ丹敷戸^{ニヒキド}を始^{ハジ}め八十梟帥^{ヤソウサウ}まゝ土蜘蛛^{ツチクモ}あどむ。こゝ上代^{ウヘノヨ}の魁首^{ケイシュ}等此幽^{カクレ}冥子^{ミヤコ}屬^{ツキ}て身をも隠^{カク}さむ。まゝ顯明^{ケンメイ}る屬^{ツキ}て死もせぬもの也。残^{ノコ}るおほべし。

はてかく定^サてあむらも。皇御孫^{スメミマ}邇々^{ニニ}藝命^{ゲノミコト}を天神^{テンシン}此御兒^{ミコ}子^コまゝして。死^シ給^{タマ}ふあどめあま。天^ツ因^{イン}子^コ生^シ坐^サしおまきバ。悉^{シツ}く天上^{テンノウ}此御質^{ミサガ}ある故^ユに。御壽命^{ミイノチ}も遙^{ハルカ}に遠^{トホ}く長^{ナガ}く。御代^{ミヨ}知^チ看^{カン}しむむを。御兒^{ミコ}火^ヒ々^ク出^デ見^ミ命^{ミコト}子^コ至^リて。天神^{テンシン}の御胤^{ミコノネ}子^コハあれども。顯^ハ因^{イン}子^コ生^シ出^デ給^{タマ}ふバ。おほおら顯^ハ因^{イン}子^コ御質^{ミサガ}とあり給^{タマ}ひし

故^ユに。父命^{フノミコト}よりハ。御壽命^{ミイノチ}も遙^{ハルカ}に短^{ミヅカ}く。其御兒^{ミコ}鶉^ウ鶉^ウ草^{カサ}葺^{フキ}不^フ合^{アハ}命^{ミコト}子^コ至^リて。今^{イマ}一段^{イツタン}顯^ハ因^{イン}子^コ御質^{ミサガ}あると給^{タマ}ふるうらう。父命^{フノミコト}よ。ハ御壽命^{ミイノチ}も。今^{イマ}一際^{イツキ}短^{ミヅカ}くあり給^{タマ}ひ。其御兒^{ミコ}神武天皇^{カムヤマト}子^コ至^リて。ハよ^ヨく御壽命^{ミイノチ}も短^{ミヅカ}くま^マゝゝて。僅^{ワザ}小^コ二百^{ニヒャク}歳^{サイ}お過^ス給^{タマ}はざゆ也。次^{ツギ}々^{ツツ}天^ツ因^{イン}子^コ御質^{ミサガ}の薄^{ウス}らむて。顯^ハ因^{イン}子^コ定^サて往^ユく御質^{ミサガ}あり給^{タマ}ひ。ハ故^ユに。是^{コト}ぞ天神^{テンシン}此御心^{ミココロ}ひいて。幽顯^{ウケン}及^ツ神人^{カミヒト}ハ差別^{サベツ}を定^サむ給^{タマ}ひ。所^{トコロ}に。至^ツり留^{トド}まるよあむ也とある。

古事記。大山祇神^{オホヤマツミノカミ}此磐長^{イハナガ}姫命^{ヒメノミコト}と。木花咲耶^{キハナサキヤ}姫命^{ヒメノミコト}を。皇御孫^{スメミマ}命^{ミコト}子^コ奉^{ホウ}し下^シふ。爾^{コトニ}大山津見^{オホヤマツミ}神^{カミ}。因^ユ返^ヘ石長^{イシナガ}比賣^{ヒメ}而^{シテ}大^{オホ}取^{トル}白^{シラ}送^{オウ}

者我之^{コトハ}女^メ二^ニ竝^ト立^ト奉^ル由^ル者^ハ。使^シ石^ノ長^ク比^シ賣^ル者^ハ。天神^ノ御子^ノ之^ノ命^ヲ。雖^モ雪^ノ零^リ風^ノ吹^ク恒^{トシ}如^ク石^ノ而^{シテ}常^ニ堅^ク不^レ動^ス坐^シ。亦^モ使^シ木^ノ花^ノ之^ノ佐^ト久^ク夜^ヲ毘^シ賣^ル者^ハ。如^ク木^ノ花^ノ之^ノ榮^ニ榮^シ坐^シ。宇^ノ氣^ノ比^シ互^ニ貢^ス進^ス。此^レ令^シ返^ル石^ノ長^ク比^シ賣^ル而^{シテ}獨^リ留^ル木^ノ花^ノ之^ノ佐^ト久^ク夜^ヲ毘^シ賣^ル故^ニ。天神^ノ御子^ノ之^ノ御^ノ壽^ノ命^ヲ者^ハ木^ノ花^ノ之^ノ阿^ヲ摩^ヲ比^ヲ能^ク微^ニ坐^シ故^ニ。是^レ以^テ至于^テ今^ノ天^ノ皇^ノ命^ヲ等^ノ之^ノ御^ノ命^ヲ不^レ長^ク也^{ナリ}。とある。まゝ多^ク神^ノ代^ヲ卷^ク。磐^ノ長^ク姫^ノ恥^シ恨^ム而^{シテ}唾^キ泣^ク之^ノ曰^ク。顯^ク見^ル蒼^ク生^ル者^ハ。如^ク木^ノ華^ノ之^ノ俄^ニ遷^ル轉^ス當^ニ衰^ス去^ル矣^{ナリ}。此^レ世^ノ人^ノ短^ク折^ル之^ノ緣^也也^{ナリ}。とある。を以て。邇^ク々^ク藝^ノ命^ヲよ^リて次^々々^ク。天^ノ皇^ノ命^ヲ等^ノ此^レ御^ノ壽^ノ命^ヲ也^{ナリ}。短^クくあり給^フ牙^ヲる起^ル原^ノの如^ク思^フ。或^ハ顯^ク圖^ノの入^ル々^ク此^レ壽^ノ命^ノの短^クきも悉^ク。是^レ了^ル緣^ヲる事^トは思^フふ也^{ナリ}。未^ダをとり牙^ヲて。其^レ大本

をとら牙^ヲざ依^テ説^キて。委^シ一^ヲのらま^シ其^レも多^クと牙^ヲ大^ク山^ノ祇^ノ神^ヲ。及^シ磐^ノ長^ク姫^ノ神^ヲ也^{ナリ}。如何^ニ了^ル尊^キ神^ヲもせよ。因^テ神^ヲ也^{ナリ}あ^リら。最^モ尊^キ天^ノ神^ニ此^レ御^ノ兒^ノ小^キま^シ。邇^ク々^ク藝^ノ命^ヲをり。次^々々^ク此^レ天^ノ皇^ノ命^ヲ等^ノ此^レ御^ノ壽^ノ命^ヲを短^クく爲^シ給^フ法^ヲよ^リて何^レらま^シ其^レ大本^ノを造化^ノ神^ノの幽^ク小^キ量^ヲ定^メ給^フ法^ヲよ^リてに基^キて誓^ヒ給^フ牙^ヲる小^キあ^リそ何^レき。只^シ此^レ神^ニ不^レ意^{ナク}始^メ給^フ牙^ヲ依^テ小^キを非^ズば^ルこと也^{ナリ}。明^ラ多^クし。然^レもあ^リきども言^ハ靈^ヲ幸^ニもふ因^テあ^リき。其^レ御^ノ誓^ヒは驗^ス也^{ナリ}。如^クま^シめ何^レらばき也^{ナリ}。其^レハ未^ダぬるあ^リことを思ひ辨^ズふ法^ヲし。はて世^ノ間^ノ小^キ何^レりとあるもはた。生^メ死^スも善^クも惡^クも清^クきも

汚きも盡く其大本を。天御中主、大神此御功績の一より割
き出さるをけあれば。惡きもの。まゝ汚れた物なりとて。世界
此外に追避する處はなかり理し。其ハ勝と依天國を造給する
了因て。其小劣する此顯因め出來。まゝ次了を限となく汚
く賤き。夜見、因さず出來さる。譬牙巴人、身も。造化、神此御
靈徳了よりて。生出るもけあきとめ。頭面胸腹手足はて。
上下尊卑清穢自ら別きと依が如し。手足は卑しく穢れも
各々活用をぬきものあれむ。其を斷去てハ頭面胸腹め。其
徳を修むるまとな得ざる。けきむ善惡邪正を。世此始を
よめ。車の兩輪は如く並び往むやま依が。自然ある道理は

まども。其正善を採。其邪惡は捨るも。又元より此道あきむ。
善を勸を惡を止らさむとを依所よ。政事も立しれり。亦
已。斯て伊邪那岐、大神ハ。夜見、因み往まして。其因は穢り觸
給ひ一城。太く悔思わして。日向此橋の小戸は檉原小ひて
ましま。禊祓を給ふ時了。まが御身子たきあるものを盡し
投棄給ひて。其潮に墮潛て。大禍津日神亦名瀬織。吹生し
給牙已。此を彼穢繁因み到りま。時。穢り觸き給ひ一を。
甚く惡之憤り給ひし。荒魂此凝あまる神れまむ。物は穢れ。
世此禍事あど。攘む清を給ふ。其御所爲も。荒々しくま
ま。ま。一て。譬へむ今世此武官の如し。

但し禍此字也。荒字の義も見るべし。其も甚く御所爲は
荒々志く坐に故也。時と志ても。惡了變るおとの。およも
しも阿らげきども。其本此起也。善も爲し給むむと。思
ふ志を以御心は進て。惡了變まば。其も末ふて。善れ方ぞ
本ありある。然依を此神を。御名おは之泥て一向了惡神
は如く解おに説也。禊祓も幸了給ふ事實を志らげざる非
言れまば採了足らば。

次了其禍を直さむと。思ふ志を以て。大直日神亦名、氣吹を。
吹生し給了也。此も彼、禍津日神也。御所爲は荒々しき字。矯
和志給む也。思ふ志を以て。和魂の疑あまは神れまば。萬此

汚穢を攘ひ清を給ふ了。其御所爲も優も和うみして。譬了
む。今世此文官は如し。其ハ今の人めちどく了。此御靈徳
を得て了。阿まむ。物了觸て。荒魂は感く折も忿り健び。和魂
は動くを以ハ和之睦びも。互も往來活用く間ふ。千萬此事
も物め出来るぞあり。次了伊豆能賣神亦名、速秋津比古神、
亦名、速秋津比賣神。
次了速佐須良比賣神を生之給ふ。是則祓戸、四柱神也。次了諸神等を
生之給ひ。生は終了。天照大御神と。須佐之男大神を生之給
ひて。其天照大御神了。高天原を知らせと。事寄し奉て。萬
代も動まおた。大君や定を給ひき。

お、ぞ後も。皇御孫、命を。天下此大君と定て天降し給ひ。

長く天地に往來を斷ち給ふる事此起りありは。

又須佐之男大神も。天下を知らせと。事寄し給ひま。然る

小此大神も。天下をバ知看し給も。母神此まも。根堅

洲ス罔クニ見ミ。到キ。坐マむと乞ヒも。給メふ故ユ。御心ミコココロはまみ。免ヒ

老給ひぬ。あゝ小伊邪那岐大神ハ。神功既竟へ天上アマノ昇ノボて。

前マ事寄コトヨ。天神アマノカミ子復命コノコトヲて。無窮トホヒ。日少宮ヒコノミヤ。鎮シり坐マて。幽

政を取持トて。天照大神アマテラス此コノらし給メふる。顯政シメサセを補佐タメ給

す。

但し神功既竟と。罔營クニノの大業オホノもて。則顯シ。世此君職ヨシノを成

竟ハ。給メふる字ナリ云ハ。示シ日ヒ。少宮ヒコノとハ日球ヒノをシ。日ヒくシた

宮といふ尊稱ミコノ。はて其處コノに鎮シり給ひぬ。幽冥ユミ小

屬ミて。御身を顯シし給も。故ユ。天岩屋戸イハノ隱カ。此時コノを始ハと

志シて。葦原中罔アシハラノの御言ミコトノ向ムカふ。如ニ。大事オホノも及びヒてハ。産

靈ミコト大神オホノを顯シて。御親ミコトノら事執コトヲ給ひ。伊邪那岐大

神オホノ此顯シて。坐マて。事執コトヲ給はぬ。幽冥ユミも。於コきて。やむ。と。あ

た事コトの何ニる。故ユ。其コノハ後ノチ。小此顯シ。罔クニ。幽顯ユミ。二分ニ。子別

きて。政事サシコト此コノあ。既ハ。高天原タカマノに起オ。原ノ。事コトを。よく。

悟サトる。古事記コトノ。天地初發アメノ之時トキ。於コ。高天原タカマノ成ナ。神

名ナ。天之御中アメノ主ミ神カミ。次ツギ。高御産巢タカミ日ヒ神カミ。次ツギ。神産巢カミ日ヒ神カミ。此コノ。三柱ミハタ

神者カミノ。並ナ。獨ヒト神カミ成ナ。坐マ。而シテ。隱カ。身ミ也ナリ。云ハ。宇麻志ウマシ阿斯訶アスカ備ヒ比ヒ古コ。運ウ。神カミ。

次天之常立神。此二柱神亦獨神成坐而隱身也。と見えたる隱身也。幽冥に隱り在て。御身を現し給ふぬや此傳也。大抵此人々ハ最初とて天上に。幽顯二分はるまとい。迄を思ひ得ざるをうらう。少く驚かすおくものぞ。其ハ神世七代あどはるも。幽より出て。幽に歸る迄。顯世にありて。一間をばちて。一代とを云ふはありま也。

はて須佐之男、大神也。根、堅洲國に。往坐むと一給ひおも。まは天照、大御神に。御暇を乞奉らむや思ふを。天上に參昇給ひし時。所由をゆめて。天照、大御神と。御誓は御中。天忍穗耳命を生じ給ひま。

此に御兄弟。互に玉と劍を持して。誓ひ坐る御間。生坐る御兒。子て。此もまゝ造化神の幽に量り給ふ。御心まほこと云ふめ更へ。さて此天、忍穗耳命ハ後。天下の大君子立給ひし。迹々藝命の御父神なり。

然して後。須佐之男、大神也。此國に天降坐て。暫く留て。おを御祖命。此御行を受繼ひ。天下を經營給ひ。其御跡を。御兒此神等。譲置て御親らへ。根、堅洲國則夜見國に往ませり。はて此時より彼國に顯政を知て給ふ君と定りて。月夜見命とあり給へむ。伊邪那美、大神ハ幽政を司りま。其顯政を補佐給ふまと、おま也。斯て此國土は。月夜見命。此御子。此次

次御祖命此御職を受繼給ひて。大己貴神此時。殊更天
神其命以て。其御兒少彥名神を副牙。兄弟と爲て。此國土を
盡く經營らし給ひし。さあ此大己貴神此。大國主大神
とありて。知し給むし時。亦至て。萬は事物も熟く備て。い
や真盛なりありあらし。おし高御産巢日大神及天照
大御神其命以て。豐葦原千五百秋之水穗國は。是吾子孫此
次々君と坐は。汝き國ありや詔て。其君を降し給むとせし
小。此國了嚴速振荒振神等ありし。其荒振神等を言向
和し給むとて。其神を撰むて。終了經津主大神也。建御
雷大神を。天降し給ひて。大國主大神子詔賜をく。夫汝治願

露之事宜是吾孫治之。汝則可以治神事

此顯露之事ハ。顯明小坐て。人等の政事を云ひ。神事とハ
幽冥小坐て。神等此政事を宣ひし。

又汝應住天日隅宮者。今當供造。即以千尋栲繩。結爲百八十
紐。其造宮之制者。柱則高太板。則廣厚。又將田供佃。又爲汝往
來遊海之具。高橋及天鳥船。亦將供造。又於天安河。亦造打橋。
又供造百八十紐之白楯。又當主汝祭祀者。天穗日命是也。と
最も重く。御饗應給牙バ。

但し。天日隅宮と詔牙るハ。天上小殿をく造り
給ふ。天日隅宮を詔し。然るを先達を。杵築大社と見と

るのらよ。解得ざはよとのみ多し。抑天、穗日、命ハ是より以前。因體見ハ天降まりて。天翔因翔。天下を見廻て。天上下參昇て復命しまや。神賀詞了見えて。其後また此因了天降まり、證を何き此書も見にざれば。必女天上に留る給ひしよと論ふ迄もあく。天上に留りまに穗日命此。杵築、大社此祭祀を司るはくもあらば。其ハ上よ云牙る。天神此詔命のはり續子。即以紀伊、因忌部、遠祖手置帆負神定爲作笠者。彦狹知神爲作盾縫者。天目一箇神爲作金者。天日鷲神爲作木綿者。櫛明玉神爲作玉者。乃使太玉命以弱肩被太手襪而代御手以祭此神者。始起於此矣。

且天兒屋命主神事宗源者也。故俾以太占之卜事而奉社焉。とあるハ。天日隅、官子。大因主、大神を祭、給ひしよて。其官の制作此ことハ。上は詔命、小讓て。まよもあ。祭式を此み云牙る。古の傳狀に。但し天、太玉、命と。天兒屋、命ハ。もやより神事を司り給ふが御職あるよよて。此時此御祭禮をも。始を置給牙るあり。然まとも此二神も。皇御孫、命了屬て天降坐し給ひはまば。其後此御祭禮ハ長く。天、穗日、命よ。司らし給ふよぞあるはよ。或人間、事らく。然らむ古事記此。大因主、大神此御舍を請し給牙る下よ。於出雲、因之多藝志之小濱、天之御舍而。と見えまよ出雲、

因風土記。神魂命詔。五十足天日。栖宮之縱橫。御量千尋。考繩持而所造天下大神宮。造奉請而。と見え。まゝ天神此詔命。又爲汝往來遊海之具。高橋及天鳥船。亦將供造。とありて。天上に海此ありよ。い未聞也。此も如何。己答ふ。まが天日隅宮の始む。神代卷に傳ゆ。杵築大社此始ハ。古事記。神賀詞。風土記。あどり傳り。い。て。杵築大社の比類。ぬく盛太あるも。天上此制作。了效。い。まゝ其を天日栖宮と云ふも。天上此日隅宮の稱を轉せる。其例ハ。常陸因風土記。自高天原降來大神。稱鹿島天之大神。天則号曰香島之宮。地則名豐香島之宮。と見え。さるを。神名式

了。常陸因鹿島郡鹿島神宮。次新嘗。とあり。是。まゝ神代卷。伊弉諾尊。功既至矣。德亦大矣。於是登天。報命仍留宅於日之少宮矣。と見え。さるを。神名式。近江因犬上郡多何神社二座。とあり。を。後ハ日少宮と云ふも。とあり。天上此宮の稱を轉せる。まゝ古典。了天上。まゝ香山安河。狹田。長田。あど。山も河。め田。を見え。さる。海。とて。も。れ。し。と。ハ。云。い。ぶ。る。い。又。問。ふ。神。賀。詞。ハ。是。ハ。親。神。魯。美。乃。命。宣。久。汝。天。穗。日。命。波。天。皇。命。能。手。長。大。御。代。乎。堅。磐。尔。常。磐。尔。伊。波。比。奉。伊。賀。志。乃。御。世。尔。佐。伎。波。閉。奉。登。仰。賜。志。次。乃。隨。尔。供。齋。仕。奉。氏。と。見。え。ま。ゝ。姓。氏。録。ハ。出。雲。臣。天。穗。日。命。

之後也。とあるハ如何ニ。己ニ答ふ。天、穗日、命ヲ。天上ニ。此日隅、
宮ニ。此祭禮を司らし給ふも全く。天皇ヲ。天下を平ク。安ク。
く知ル。看ル。させ給ふ御ノ。爲ス。おきば。其穗日、命ニ。此御所ニ。爲シ。お效ス。て。
其御ノ。兒ニ。天夷鳥命ニ。此杵築、大社ニ。仕奉、始ス。をシ。まシ。ふシ。其
子孫ニ。お受テ。繼リ。來リ。まシ。む。其速、祖ニ。ある穗日、命ヲ。係テ。壽ニ。申セ。る
小ノ。ぞ。何レ。也ナ。お依ル。まシ。と。姓氏録も。誤ル。おシ。あらバ。きコ。ども。同録
る。出雲、臣、同神、子。天、日名鳥、命ニ。之後也。や何レ。りて同神ニ。也ハ。
天、穗日、命を云フ。牙ヲ。るコト。ふテ。出雲、臣ニ。此祖を天、夷鳥、命ニ。係テ。
云フ。ふコト。ぞ。正シ。き傳へ状ありス。斯テ。天、夷鳥、命ニ。此杵築、大
社ニ。仕奉、り始ス。をシ。るコト。ハ。神賀詞ニ。此天、穗日、命ニ。此天下の國

體ヲ。を視テ。して。天上ニ。お參リ。昇リ。て。復シ。命ヲ。し。所ニ。此ニ。けし續ク。るコト。己ニ。命ヲ。
兒ニ。天夷鳥命ニ。此布都怒志命ニ。此副ニ。天ニ。降リ。遣ル。天ニ。と何レ。る時ニ。お。
布都怒志命と、もシ。天降リ。まシ。りて。中ニ。國ニ。此荒振神等ニ。を服ス。
從リ。牙ヲ。坐シ。し時ニ。お。大國主、大神ニ。此請ヒ。し給フ。牙ヲ。るコト。まシ。ふシ。天上
此制作を以て。杵築、大社を造リ。給ヒ。て。布都怒志命ニ。此其齋ヲ。
主ニ。神ニ。とありて。祭、鎮ヲ。を給ヒ。其後の御祭禮をシ。天夷鳥、命
小讓リ。給フ。牙ヲ。るコト。まシ。りて。出雲、臣ニ。此代々當社ニ。仕奉、法ト。と
此ニ。おシ。おシ。るコト。外ニ。係ル。べシ。けテ。布都怒志、命ニ。此亦名を齋主、命
と云フ。ふも是レ。より起リ。多シ。其御魂ヲ。を香取、宮ニ。留メ。を給ヒ。し
とぞ思フ。を係ル。さシ。まシ。ば天、穗日、命ニ。此天上ニ。此日隅宮を司リ。

給ひ。其御兒天、夷鳥命也。杵築、大社を司り給ひて。御父子
とも同神也。御祭禮を司り給ふ也。實は深き所由也。
あやぐど思はぬ。

こゝに其御兒事代主神也。父大國主、大神を諫めて。潔く此
顯世を避り給ふ也。大國主、大神に申し給ふ也。如此天神の
勅命は慇懃あるらひ。敢て勅命を。従はざらむや。吾が知
き依顯露事ハ。天神の御兒知らし給ふ也。吾ハ幽事を知
て。常磐小侍ひあむ也。申竟て。顯世を避り奉り給ひき。然し
も後了。御兒事代主神と。もよ。天下りあめとあらゆる神
等御魂等を率て。天上に參昇て。服從に至るを奏し給ふ也。

此處ぞ高御産巢日、大神也。天上に神籬を立て。せらり予
了。因神を齋き祭給ふ也との起原あれば。先心得置て。末
子云ふ也と字。熟く見合て味ふ也。

さてかく天地。夜見とも。其君主定めたる上。伊邪那
岐、大神也。高天、原に幽政を知看て。天照、大御神也。顯政を補
佐給ひ。伊邪那美、大神ハ。夜見、因に幽政を知看て。月夜見、命
亦名、須佐之男、神。顯政を補佐給ひ。此中、因の幽政字也。大國主、大
神を大物主、大神として知看させ。天照、大御神也。須佐之男、
命に御誓の御間ふりま。皇御孫、命に顯政を補佐し
を給ふら。これ皇祖天神に御意として。遠く量り定給

ふ。幽契ユウキもぞありある。人とあらむもれた。心を潜カクレてよく考
牙ウサ。とく思ひて。此神理を辨牙ハシ知らばむ。有アらばらば。さきバ
吾ガグ惟神カミナラ此大道ミチも一も。最も尊イき。天御中主アメノナカヌシ大神カミ此大御心
を本ホとして。次々ツギツギも皇神等ミコトナラ此。勤ツトを行ひ給タマふる事實コトノマデも備ツクり。
其ソノ中ナカも君臣ミコトシノ此大道ミチを以もつて。主ミコと立タらまし御道ミチあれバ。
此大綱オホノミを舉アゲて云ふ時ハ。人倫ヒトノリ此上カミあくてむ。叶カナむばる物
を悉シく。此大綱オホノミ此中ナカも孕マコめてあると云ふも更マシ。さて其
道ミチと云ふ事コト此書シヨも見ミえと依始ヨシむ。古事記コトワザも天神アメノカミ葦原アシハラ中ナカ因ユ
此。荒振神アラハルカミ等を。拂ハラひ平ヒラめて。皇御孫ミコトノミコ命ノミコトを天アメ下ノ此大君オホノミコと定マて。
天降アメノクダし給タマむと。おもちて。其神ミコトを撰マシび給タマふ下ノ。天尾羽張アメノハシ

神カミ此御答ミコタヘふ。かゝる仕奉シラサヘむ。然シカまども此道ミチハ。吾子武甕ミコタケミカ
槌神ツチノカミを遣ツカはしと申マシて。則スナハチ貢進ツクシき。やあるあむ始ハジもてあり
ある。然シカ依ヨ字ジ此道ミチや。葦原アシハラ中ナカ因ユ往ユク。道路ミチを云ふあや解トク
る説セツもこれ非言ヒガコト。其故シユハ皇御孫ミコトノミコ命ノミコトを。此中コノナカ因ユ天降アメノクダし坐マ
依ヨハ何故ナニユエぞ。其負持シノオヒて往ユク事コトこそ本ホあき。行路ユキミチも末スエあるを
や。去サり此道ミチとあるを。専マクら天神アメノカミ此御心ミコトノココロはまに。葦原アシハラ
中ナカ因ユ此。不服從フボクジョウ荒振神アラハルカミ等を。言向コトムカ和ニして。皇御孫ミコトノミコ命ノミコト。安因ヤスユと
平ヒラく。知看チカンさせ給タマふ。大道ミチ此本義ホノキをさあて。詔ミコトノコトふる事を思オモひ
辨ハシふ後ノチし。かくて皇極スメルミヤ天皇ミカド紀ノキ。順考ノリカウ古道コノミチ。まも孝徳コトク天皇ミカド紀ノキ
小帝道スメルミヤノミチ唯一ヒトツキ。とも見えある如スく。其道ミチ此中コノナカも。君臣ミコトシノ此大義オホノキ

の心とく。重た道は極あるよりハ。天神は詔命。葦原千
五百秋之瑞穂國是吾子孫可王土地也。と詔するも都し給
ふ傍き本於大御國を以て。詔らせ給する内ハ。天下をま
はし給ふ傍きよた然。廣く包くる神語ある也。天照大御
神は御照を坐し國は限る。諸は外國までもこれら。臣と
あて仕奉るべた理かのたら明らか。たより高御產巢
日、大神は詔命。吾則起樹天津神籬及天津磐境當爲吾孫
奉齋矣。と詔する。さて此神籬を靈室城は義あり。御槌代は
まき。厨子のみまき。其御靈實を坐せ奉る。器物をさして宣
するもこれら。御舎はでを包くる神語あり。

但し神は木綿を著て。神籬とさる類也。一時假は神座に
設る畧式ある也。まは事ハ應はま思ひ混る事勿也。
まぬ磐境は磐ハ。堅磐常磐あざは磐ハ同く稱辭。境ハ字は
如く。天上の齋庭を定て。祭始を給する上ハ。其境の萬代迄
も。動くまじよ義字含えよは神語あり。

顯國ハ中頃と也。稀ハハ神地を犯すもこれら。何を以
て。後世迄を慮り給ふ。神は御心は至するを。能く思ひ味
ふはし。

斯て其處に齋を祭給ふ神等ハ。如何かと云ふ。上は云
は如く。此國はありとあらゆる。八百萬神等魂等ハ。大物主、

大神事代主、神也。御後、お立して。天上へ参昇て。誠、欺けずを
奏し給ふるを。深く賞給ひも。其神等魂等を。無窮に齋き祭
て。皇御孫、命に手長に大御代を。堅石に常石に。守らしを給
ふ神慮あり多し。其を最も尊ぶ。高御産巢日、大神也。御上よ
し御覽し。まは時は。御兒とめ臣やも云ふはき。因、神等魂等
を。かく重く御饗應し給ふる也。所謂君に臣は義ありとも
親に子に慈ありやも。譬て云む言葉あり。此一事を以て
も。神道は高く尊ぶ由縁を悟るはきなり。

此前後の事也。神事、宗源傳ふ。委く云ふを待て見るはし。
又上は詔命に續了。汝天兒屋命太玉命宜持天津神籬降於

葦原中園。亦爲吾孫奉齋焉。と宣ひて。

但し此神籬は。大抵神宮に御榎代あどけ如くなる。器物
あはべし。其を延曆に神宮儀式。及延喜の大神宮式に。御
正體を納め奉る御榎代。深一尺四寸。内徑、一尺六寸三分。
と見えよ。二十一年毎の正遷宮に時を必ま新に造奉
て。坐せ奉る例あるが。己、宣教、大講義生みて。神祇官に仕
奉るる明治三年に春。神宮に古き御榎代の來、志をか
たぐも窺ひ奉ら。寸尺を式に見えよるは同く。黄金を
以て。丸く印籠蓋を製する御榎代ありき。して御榎代を。
御聖城に義よて。神體の城として。いまよ志に御名し。

斯て神籬と。御極代也。名も異きども。同じ御正體を。納を
奉る器物あまき。甚く違ふやハ。あるは。其の神
宮此之れら。古社此御正體を。納を奉し。神籬も。猪小ハ
檜の印籠蓋此曲物あるも。阿る字以て知はべし。

まが産巢日大神。御親此御靈實を始を。心ややむおとあは
神等此御靈實を。彼天津神籬了鎮て。皇御孫命此近よ守神
と授給ひて。大宮此内小齋。よ祭ら志を。其を齋庭の大本や
して。常了天津祝詞の大詔戸言以て。天神地祇を齋き祭て。
天下小ハ荒振神もあく。不服従人ぬあく。平けく安多く。治
免給へや此神勅ふして。是ぞ大政此本とも本ふをりり多

る。けて其授給する神等也。大巫祭神八座。所謂神祇官御門
巫祭神二座。生島巫祭神二座。おど此神等也。

但し座摩巫祭神五座。此處了漏て。後子天押雲根神の
水取小參昇坐る時了。神魯岐神魯美命也。授給する天五
串を以て。齋支祭まはあらむ。

其も古語拾遺也。神武天皇の御世此あやを志るせは下了。

爰仰從皇天二祖之詔。建樹神籬。所謂高皇產靈神皇產靈魂
留産靈生産靈足産靈。大宮賣神事代主神。御膳神。已上今御
也。擲磐間戸神。豐磐間戸神。已上今御門。生島。是。大ハ洲之靈
也。齋坐摩。是大宮地之靈。今と見えざるハ。上小云牙由縁子

よめて。當初ソノカミと日向、因レ此都子齋イハヒき祭、來マて一を。神武天皇の御世了。都を橿原カシハラに遷ウツリし奉マツルる時了。右此神等もとほ小遷志奉マツル、一が拾遺シツイ子傳ツタへるも一然らばとせむ。彼高御產巢日、大神は最も嚴重オホソウ了授給マツルる。天津神籬をば。何處ナニトコロ子納ウケれ奉しとせむ。其が中ナカに。大巫祭神八座を。孝德天皇は御世了。八省百官と、もる。神祇官を置オケせよとせりて。始ハジメて宮中を離ち奉マツルて。當官トウカン子鎮米奉マツルしあり多オホシ也。

云イハれまマくマて畏オソる多オホシき也。此時了專ら漢風カンフウを效タシひ給ふをさびる。其本源をも熟く考給マツルて。及マが、位イハやむおと也。天皇此近き御守神等を。疎畧ソロハ子宮中を離ち奉マツルて。神事カミコト子

係ケる官人を賤シノを給ひ一より。御政事ミコシゴト此本とある神事を次々子衰へ。又あまき子従ひて。朝廷テウテイは御稜威ミコササも衰て。遂ツギに保元平治此方の。御代此形勢カタシヨといあり一に。穴あり一也。

此を神名式カミナシキ子も。御巫祭神八座。並大月次新嘗中宮東宮御巫亦同神產日神。高御產日神。玉積產日神。生產日神。足產日神。大宮賣神。御食津神。事代主神。とありて。心ココロを正ただし御傳ツタへるを。世ヨに此大宮賣神より以下の神等も。神武天皇の御世などよりハ。遙後トホノチ子祭添マシあるあらむなど云ふ類ハ。更さらに據タもあま非言ヒコトみて採トり足らぬ。其も大宮賣神。亦名天鈿女命あどハ。皇御孫命ミコノミと也。顯ア御身ミ子て天降アメノ坐カし於オまマバ。殊また更さらに其御靈ミコタマを。大宮

賣神と稱す。天津神籬を鎮めて授給へる由縁を深く考得ざるが故也。其たまづ産巢日大神も御親此主宰の神靈を魂留産靈神。生産靈神。足産靈神。と三柱を稱す。まづ保食神此神靈をむ。御膳神と稱て。皇御孫命の近き御守神を定て授給するもけあり。

事代主神と云ふ御名も。天神より賜て一あらむと思ふよりあり。其在學神考及神事宗源傳了。委く云ふを待て見るべし。まゝ御門、巫祭神二座も手力男神此神靈を。櫛間戸神。豐櫛間戸神。と二柱を稱す。生島、巫祭神二座。則大八嶋國の靈をば。生嶋神。足嶋神。亦名ハ生國。足國。と稱

す。天津神籬を鎮めて授給ひ。まゝ坐摩、巫祭神五座ハ。天津雲根神。此水取此時。御井神の神靈を生井神。榮井神。網長井神。と三柱を稱す。阿須波神。波比祇神の神靈をも。彼天、玉串を取託て。授給へばあらむとぞ思はる。

はて其八柱、大神等此神靈を。第一に授賜ひて。此を齋庭。此最上として。朝廷了重く齋を祭らるを給ふハ。いふ所由ぞや云ふ。まづ世間。生とし活るものも盡く。二柱産巢日、大神の生産靈。此恩頼よりて。生出ざるはあまが中よも人ハ萬物。此靈長あまバ。姑く人此上を以て云む。但し産靈、大神此魂を賦與て。生活るを給ふ證ハ。古事記

小。大己牟遲神の兄弟八十神怒て。大己牟遲神を殺むと相謀て。伯伎罔比手間山本子到り云ひ多るを。此山子赤猪居る故。吾ら追下す。汝待て取き。若し待取らば。必だ汝を殺むと云ひて。猪子似たる大石を火以て焼て轉し落し死。故追下り。取時。其石小焼著きて。死給ひま。あゝ子御祖命哭患て天上小參昇て。神産巢日之命子請し給ふ時。即蚶貝比賣と蛤貝比賣とを遣せて。作活けを給ふ。故蚶貝比賣はちぢ焦て。蛤貝比賣水を持て。母乳汁と塗しうむ。麗壯夫あまも出遊行。あゝ八十神見て。又欺て山小率も入て。大樹を伐伏。矢を茹て。其木

小打立。其中入り入らるを。即其ひを矢を打離て。拷殺ま。故亦其御祖命哭つ。求む。見えも。即其木を拆ち取出活を給ひ。事此見えある中。上あるを正しく。神産巢日。大神比御心として。顯ふを蚶貝比賣と。蛤貝比賣をおませて。其傷を愈え給ひ。幽みハ御親ら魂を賦與し賜牙依ふと明らけく。其を此時此謂きと見えて。神名式子。出雲。罔出雲郡。同社神魂伊能知奴志神社。まと同社坐伊能知比賣神社とある。伊能知奴志を命主比義おて。此一事を以ても。此大神を世子生と。活る物の命。比祖神ある。あとの字思ひ辨ふ。出雲。罔風土記。御祖神魂命御子

支佐加比比賣命キサガヒヒメノミコト。まゐ神魂命カミタマノミコト、御子宇武賀比比賣命ミコウタカヒヒメノミコト。あとも見えとて。斯て次了殺され給ひし時ハ。何ナニも志て活イサし給ふと云ふことを見えげまども。必カナラず神産巢日カミウツノヒ、大神此コノ御所ミヤ為ナリあるばくぞ思オモハゆ。其ソノを委オウ志シ志シ状カタを上ウし讓ナて。以下以下を畧ハクく古傳コトワザに例タトヘあるを以もつて。然シカドモハ推察サシウサフ奉マツルらるゝに。高御産巢日タカミウツノヒ、大神と。神産巢日カミウツノヒ、大神此コノ奇オモシく妙タマシな御功徳ミコトク子よゆて。人とぬるばよ一ツ物の母ハハは胎内ハハノウチに寓ヤドる時トキ。其一ツ物了タマシヒ魂タマシヒを備へ給ふ主宰サシウサフは神靈カミタマを。魂留産靈神タマシヒノミコトと稱ナす。伯家部類ウヂノカに。魂留産靈タマシヒノミコトを。人ヒトは精氣セイキを結び留トドめて。元氣ゲンキを養ひ給ふ神徳カミタマシヒとあるハ。鎮魂祭チヅメタマシヒノマツルの義タマシヒは此コノ係ケガレる此コノ説ワザを

とあり。

けて其魂タマシヒも。頓トドて頂上ウツタマシヒとあるはま處マに。賦タテり與ヨり給ふ故ユ。成人トシナリて後も其處コノに。聲コエもぬく臭ニホめあぐ位イして。手足テヲを始ハて爪ツメの先迄ノを。至イらぬ隈クマなく。五百イハ綱ツナ千綱チツナを引延ヒキハる。身ミ體タマシヒを主宰サシウサフする。と譬タトヘへむ高天原タカメノハラに神留坐カミウツマシヒて。天地アメノチを主宰サシウサフし給ふが如ごとし。偕トド魂タマシヒは頭アタマに寓ヤドする事コトハ。如何ナニもして知チるぞと云む。萬葉三市原マンヤクサンイチハラ、王ミコは歌ウタう。伊奈イナ太吉爾タキニル。伎須賣流玉キスルユク者ハ。無ナシ二ニ方カタ彼方毛君カノカタノキミ之ノ隨意スガヒと何ナニゆ是コノに。伊奈太吉爾イナタキニルハ。頂ウツタマシヒおへ。伎須賣流玉キスルユク者ハ。来住魂キスルユクノミコトハ。以もつて略解リョクゲ此コノ説ワザを誤アヤく。無ナシ二ニハ聞えとて。此方彼方毛君カノカタノキミ之ノ隨意スガヒを。以もつて給たまむむも。君キミが

意の任トクあり。一首此意ハ。吾グ頂タカ子住スる魂タマを。あつて。君をおまて。佗ナニ心ココロの移らむよ。あけまば。生ナまも殺コロをも。君キミがわがさむまゝ。あを爲ナす侍らむと云イハる。く。けて頂タカハ常トコり魂タマ此本府コノミヤあるからに。誰ナニめ頭カビを愛ハシひ思オモひ厭イヤをさるゝあり。斯カて其魂タマの凝コて活イ用物ヨウモノをさして意ココロとも云イハふ。但タし意ココロハ。コリコリ此コノのりを略クワき。一ヒトけりをバロバ子コ轉マゑとる言コトよて。則ス凝コ凝コ此義タカシ。古事記コトワザ。鹽シホ許コ袁ヲ呂ロ許コ袁ヲ呂ロ。邇ニ畫カキ鳴ナレ而ナ。何ナニほも同じ義タカシよて。彼伊邪那岐伊邪那美大神イセナキイセナミの沼ヌ矛コを持モて。青海原アヲを搔カふ。給タマひし。大御手オホミテ此コノ運ハ此コノ隨ツ子ミヤ。潮ウレ此コノ凝コあまる状サマ。然シカ云イハふ。あものこ。

詞花集コトハツミ。心ココロさ予タ結ムスの神カミや造ツク々々むと何ナニるハ。心ココロとのこ云イハひかけて。其本コノとる魂タマ通スして詠ユる歌ウタ。さて其魂タマ此本コノも只ただ一ヒトの物モノ。ハ何ナニまど。もと男女オトメ二ニ柱ハシ産ウ巢ノ日ヒ大神オホカミの賜物タマヒモノ。し何ナニまバ。おけおら男女オトメ性セウ質シツを包カネて。物モノ小觸コサき事コトよりて。或シも怒イり或シハ和ナ。其魂タマの盛サカり凝コまる勢セウハ此コノ満ミ々々。和ナ魂タマ荒魂アラタマ奇魂キタマ幸魂サキタマと別マる。あとも何ナニほ。

類聚名義抄ルイシュヘイシヤウ。魂魄タマシ此コノ二字ニジ。ヲダマシヒ。メダマシヒ。と讀ヨミをさしあるも。さゆ所トコロ由ユあまよ。も非ヒ交カ。猶ナ云イハふ。倭ヤマト姫命ヒメノミコトの御教ミツケ。了シ。神魂カミタマ尊ミタマ此コノ精靈セイレイ。父母フツボは氣キよ入イて生ナ産ウる神カミを人神ヒトノカミと申イハふ。吾黨ウチノカミの體中タマシ小坐コイに神カミ是コノあ。とあはあど

をも思ひ合はべし。

次、其の一、物を人體と志て活動せ給ふ。主宰此神靈を。生産靈神と稱す。伯家部類。生産靈ハ。身を長養して。遐壽を得。志を給ふ神徳也。と見えとり。次、其人體此眼。耳。鼻。口。手。足。小至る迄。足し整す。給ふ主宰此神靈を。足産靈神と稱へて。授給す。ゆへ。斯て上五柱は産巢日。大神等の持分給ふ御功徳ハ。始て人とあるべきもの。母は胎内。小寓し。よ。十月を經る迄。萬至らぬ隈なく。足と整ひて。此顯世。小生出る迄。小係て。心得候し。

上、件神等此御功徳。小を以て。まづ大虚空。中の一、物生。出て。次々。小国土とあまる状。専ら同。心む。予あま。互。小見合て。よく味ふ。候し。

次、其、世、間、小生出たる。人の魂。此離遊む。とをるを招ふ。身體。小鎮を給ふ也。大宮賣神。亦、名、天、小坐り。ける。ハ、まづ此神也。天、岩屋戸。幽居の時。種々。此俳優して。天照大御神を。ら。招き出し。給ふ。む。の。御功績あり。彼方の物。此方。了。招を寄せ。給ふ。と。奇く。妙ある。御稜威。ある。神。あ。は。が。故。み。て。古語拾遺。鎮魂之儀者。天鈿女命之遺跡。ともある。が。如し。次、其、人、了。食物を授て。身體を肥し。精氣を養ひ。給ふ。ハ。御食津神。み。て。此神。今、集解。了。御膳魂。と見え。とる。也。

實ニ小コトさるルあトとク。斯レて今モ大嘗會及新嘗會の前ニハ。必ズ更ニ鎮魂祭を執行スて。離遊ニ此運魂を招鎮スを。然レて後ニ。大御膳ヲ聞食シて。豐明ニ小コトありテ坐スる。次第ニ能ク思ヒ合スをシ。次ニ其人の生長スて。事を知り道ヲ辨ズて。萬ニ此事物を成スを給フふテ。事代主ヲ神ク。去リ云フ故ニ。事代主ト云フ御名ハ。則チ事知リ主ノ義ヲ小コトて。道知リ主トいフ等ニ去リ。此神ニ天ノ神ト此勅命ヲをカ一ニみス。御父大因主ヲ大神ヲ諫シ給ヒて。天下ヲ奉ラしを給フるモ。則チ事知リ主ニあるガ故ナ依テ去リ。云フも更ニ。さて其御言ヲを潔ク。一ニ言フ云フ離チ給フるモ。全ク事知リ主ニおテ。道ヲ明ク給フが故ニ。後ニ世ニ少ク此事を辨ズ知ル人ヲ。事知リ

あド云フも。此レら此レとよメ轉ツまるリ言葉ニあるレ。古事記。大因主ヲ大神ト此因避ニ下ニ。亦僕子等百八十神者ト。即八重事代主神ヲ爲シ神之御尾前ニ而仕奉ル者違神者非也ト。見えテも。彼大因主ヲ大神ト此御兒トハ。百八十ト多クあるガ中ニも事知リ主ニおテ。御稜威モ健クおト一ニまレ故ニ。殊ニ更ニ此神を撰ビ一ニる。皇御孫命此近き御守神と定て。奉リ置給フるあり。神功皇后紀ニ。神等此御誨ヲを請ヒ給フる處ニ。御親ヲ於テ天事代ニ於テ虚事代ニ玉籤入彦ノ嚴ノ事代主神有之也ト。詔スる中ニ。於テ天事代ニ於テ虚事代トハ釋紀ニ。兼方ノ案ニ之ヲ。天虚事代者ト。廣ク知ル天地事ノ之義也ト。代者知リ也ト。あるガ如ク。天地此

事知てふ義を發語として宣ひ去之。其を神代卷了。是時
歸順之首渠者大物主神事代主神。乃合八十萬神於天高
市帥以昇天陳其誠款之至。と見えざる趣を包ある御言
く。まご古事記。雄畧天皇此條子。御形を現して。天皇と俱
小狩し給牙る時。吾者雖惡事而一言。雖善事而一言。言
離之神。葛城之一言。主之大神也。と見えあるを以て思ふ
み。惡事ハ惡事と詔ひ。善事を善事を詔ひ。少も言ふ餘ら
ず。一言了言。離ち決むる神ぞと云ふ義ありて。是ぞ道をよ
く明を給ふ神此御所爲るべき所。今世もても道を明む
ゆ人。偽言ありてハ叶をぬふと云ふめ更之。此を鎮り

まに處を別あきども。同じ神此御上なれば。聊引出て云
牙る此之也。

抑上五柱、產靈大神等此。奇く妙ある御功德ふとりて。世に
神人此生出るまとも更ふも云ふべ。以下三柱、神等了至る
迄。身體も就ても如此やむぶとあま神等ぬる故。此八柱、
大神等を合せて。鎮魂此神として。最も重く祭り給ひ。其儀
式此嚴重あるまとも。古典了且々見えたるが如し。

令集解。神祇官問。鎮魂祭何神。答。神祇官式云。鎮魂祭ハ
座。神魂高御魂。生魂足魂。魂留魂。大宮女。御膳魂。辭代主。と
も見ゆ。

はて其鎮魂祭を令義解謂鎮安也人陽氣曰魂魂運也言招離遊之運魂鎮身體之中府故とある如く離ハナき遊ユむとをる魂を招ヲき鎮ヲむと請コヒ祈ノミ申シ祭ヒにシされバ上ニてテ天皇を始奉り下ニてテ蒼生及天下ヲ生イキとシ活イケる物ヲ悉シくシ此八柱大神ハ思オモ頼ヨりテ生活イキハタかバるハあしまきふをめて太古イニシよシ齋庭イニシハ最上といハれルま給ふに扱マあ天照大御神ハ大御手ヲ御鏡ヲ捧サゲ持モして皇御孫命ヲ授ヲてテ其御祝辭ヲ吾兒ヲ視ミ此寶鏡ヲ猶モ視ミ吾可ニ與ニ同ニ床ニ共ニ殿ニ以テ爲ス齋鏡ト詔ヒてテ同ニじ御舎内ニ齋ヲ祭ラして給ハひ。其外やぶとあた神等此御靈實ヲも授給ヲるに。但シ天照大御神御親ノ神靈ヲ取託シ給ハして御鏡ヲをバ殊

更ニ小皇御孫命ハ同ニじ御牀ニ齋キ祭ラるを給ハふとハ。古語拾遺の神武天皇ハ御世ニ此事ヲを志すに海ニ下ニ。天富命ハ率テ諸齋部ヲ捧サゲ持モ天璽鏡ヲ奉ホウ安ニ正殿ニ云云當ニ此ニ時ニ帝ノ之ニ與ニ神ニ其際ニ味イ遠カ同ニ殿ニ共ニ牀ニ以テ此ヲ爲ス常ニ故ニ神物官物ヲ亦モ味イ分カ別トとあるに如ク。上古ハ幽顯ニ近シくシて最親ト志スるに右ノ神勅ヲ了シ變ハてテ崇神天皇ハ紀ス先ニ是ニ天照大神日本大國魂二神並祭ル於ニ天皇大殿之内ニ然レ畏ル其神勢ヲ共住ス不安ニ故ニ以テ天照大神ト託シ豐ニ欽ニ入ニ姬命ヲ使シ祭ル於ニ倭笠縫邑ニ仍レ立シ磯城神籬ト見エまる古語拾遺ニ至リ磯城瑞垣朝漸畏ル神威ト同ニ殿ニ不安ニ故ニ更ニ令テ齋部氏率石凝姥神裔天目一箇神裔二氏更鑄鏡造劍以テ

爲護身御璽。是今踐祚出日所獻神璽之鏡劔也。仍就於倭
笠縫邑殊立磯城神籬奉遷天照大神及草薙劔令豐歛入
姬命奉齋焉。と有りて此時小始て宮中を離ち奉り。又垂
仁天皇紀。爰倭姬命求鎮坐大神之處。而到伊勢。因時
天照大神誨倭姬命曰。是神風伊勢。因則常世之浪重浪歸
因也。傍因可憐因也。欲居是因。故隨大神。教立其祠於伊勢
因。因興齋宮於五十鈴川上。是謂磯宮。乃天照大神始自天
降之處也。と見え。又延曆止由氣宮の儀式帳。天照坐
皇大神云。尔時大長谷天皇御夢。尔誨覺賜天。吾高天原坐
立見志真岐賜志處。尔志都真利坐奴。とありて。既く五十

鈴宮地を御覽し定を置給ひて。鎮り坐るハ如何と云ふ
子。當初天照大神と天皇也。此際未達のらざりし
崇神天皇此頃小至りてハ。神をまほく幽小遠く。天皇
はまほく顯り近くあり給へまほ。御位も稍隔りてま
あ一際子至り給ふが故。自然同牀共殿。子座せまつる
おとを畏て。安からば思ふに御心出來坐。おて。是即
て大御神の御意あるをうし。

はまほ其神等を本として。常子天神地祇を重く祭給ふ也。
則惟神大道此根原。其天神地祇を齋き祭給ふ式ハ。則禮法
此本あれば。此天下の公民小教給ひ。布ふ給ひて。青人草

を恵み給ふぞ。天皇此御職ミツサカふをありある。かゝきバ下るはものめ。上ウヘに效タテマツひ奉ホウて。其分ウケ々々神を敬ウヤひ。君を尊ウツクシみ加カへて。忠實チウジツに仕シ奉ホウらぶてを。得トクあるまじきふとせり。自ら明アキラカうく。古事記。應神天皇此條コトノリ。我御世ミツサカ之事能許コトノリ曾神習ソノミツサカ。又宇都志伎青人草習ウツシキアヲヒトクサナラヒヤ乎。とあるも。天神アメノカミ之事依コトノリ給タマフ予カミる惟神タカミヤ。大道オホミチを其儘タラシに行ユクひ給タマフふ事實コトノリに效タテマツを給タマフふコトふむコトあり多シる。扱アツまゝ皇極スメル天皇紀スメル。天皇スメル順考スミコト古道コノミチ而シテ爲シ政也シヤクとあるも高天原タカマノハラ小事始コトノリて。天神アメノカミの授給タマフ予カミる惟神タカミヤ。大道オホミチに順考スミコトして。ま於オケりコトごち給タマフひコトをカク傳ツタへるコトはシ。

あゝとせりて。古道コノミチとあるハ。此頃コノトキ彼カノ儒佛ニウブツ此コノ少シき枝エダ道を上ウヘあまものと。思オモひ惑マド予カミる徒タカ此コノ多シのコトにシ。其人コノヒト人ヒト此コノ所トコロ爲シ給タマフ予カミ對マシて。かくカク傳ツタへ給タマフ予カミはものあり。

又孝德ケウタク天皇紀スメル。天皇スメル皇祖母スメル尊ウツクシ皇太子スメル於オケ大槻樹オホキ之下ノ召シ集ツグ群臣タタヒ盟ミツ之ノ告ツケ天神アメノカミ地ツチ祇ニ曰イハ。天覆アメホヒ地載ツチノササ帝道スメル唯一ヒト。而未シテ代シ澆薄シヤウハク君ミコ臣ミヤ失序ウツクシとあるも。天津御祖アメノミ神カミ此事コトノリ依ヨリ給タマフ予カミる。惟神タカミヤ。道唯一ヒト。小コトて。其コノ千尋チヒコ栲カサ繩ヒト唯一ヒト筋スネに打延ウチノベて。至イタらぬ隈サカイあま御道ミツサカを。君ミコ臣ミヤ失序ウツクシと詔ミコトノリ予カミるを。彼カノ蘓我氏スガノミヤなど此コノ如ナド。蕃神ウツクシの力チカラを借カカリて。恣オホに驕傲オウゴウ高タカぶりて。大道オホミチを亂マシる。狂クワき者モノ此コノ類タガに對マシて詔ミコトノリひシ。

但シ上ウヘ。天皇スメルとハ孝德ケウタク天皇スメル。皇祖母スメル尊ウツクシとハ皇極スメル天皇スメル。皇

太子といハ中、大兄尊ホて。後ニ天智天皇と稱奉マきり。
斯て大化三年夏四月丁巳朔壬午、詔ス。惟神カミナリ、惟神カミナリ、惟神カミナリ、惟神カミナリ、
我子應治故寄、是以與天地之初、君臨之國也、自始治國皇祖
之時、天下大同、都無彼此者也。と宣ヒ。一ニ君臣此名
分を正し給フる詔ス。

始治國皇祖といハ、神武天皇をさして申せ也。

其が中ニも本注ス。惟神謂隨神道、亦自有神道也。とてまが
御代々此天皇ハ、現人神とも、明御神アカツミカミを稱ナて、人ニハ万し
坐交神イマツミカミまゝあがら。天皇祖神此道カミ子隨ヒて、天下を治を給
ふ故ニ。おけづか履神道ハ、何るあり。と本注をせらまシも

此レか、まバ。明御神吾大君の、天下ニ布キ給フ。大道ハ盡
く。天神の授給ケる最トも尊キ。御道あると著明アツク。はて道
の大綱とまは處ニ。則君臣此大義ニ。彼主従、或ハ父子。夫
婦、兄弟、朋友、おどハみな此大綱ニ中ニ子孕ミて、何ること。上ニ
委クいテ、何るが如し。然るを彼漢國ニ。君臣の道ニあヤ言フ痛
くハいヘど。其レと本原ニ字失ヒゑハ後ニ。私ニ建テる道ニ
る故ニ。其云ふ處の君臣此道ハ、皇國ニ主従此義ニ等トま
ものニ。實此君臣此道ニ何らニげルが故ニ。君道立テ。臣義
亂キ。時々冠履倒置スる事多シ。然まバ左ニも右ニも。其本
原トる。惟神の大道を學得ズる限ニ。眞此道ニをバ。知得ズまシ

をいけあき事しなむ云む天孫降臨此段。天照大御神の賜天津彦々火瓊々杵尊八坂瓊曲玉及八咫鏡草薙劍三種寶物。云葦原千五百秋之瑞穂國是吾子孫可王之地也。宜爾皇孫就而治焉。行矣寶祚之隆當與天壤無窮者矣。と見えあるは。天下を無窮に知看し給ふは。君道を依り奉り給ひ。まこと中臣上祖天兒屋命。忌部上祖太玉命。猿女上祖天鈿女命。鏡作上祖石凝姥命。玉作上祖玉屋命。凡五部神使配侍焉。とあるは。臣道を依り給ひしあむ。かゝる君臣の道を既に高天原に立初て。漸々備り足りてあるを。其儘授給するもののみあむゆけり。然るを世ふむ。此詔命を以て。

君臣の名分決定まき。起原は如く云ふ類は委しあむ。もと民は君は御爲に立しものにて。民は爲に君を立あるをあらざる。おきら此事をこそ大君の本於大御祖と坐ひ。天御中主大神の時より左のま。右のま。運び来りし事實を深く考得まば。自ら其疑ひはをきあむもは。ぞを疎略に勿思ひ過しそよ。さてあむ五部神とあるは。何れも其部々の長たる神にて。其長たちたる神は御名を擧て。其従ひ給ふまべては神等迄を包むは神語也。然まむ後世に。其官省寮司は長官に從ひて。君に仕奉る道もまこと主人を先として君に侍ふ道も。盡く天津宮事以て言寄し給ひ

志道理^{コト}此外^{コト}あらざ。譬^{タトヘ}へむ車^{クルマ}を行^{ユク}るが如^{ごと}く。其^{その}兩輪^{ニハシ}を輾^{ツル}ら
せるハ。官省^{クワンシヤウ}寮司^{リヤウジ}の長官^{チヤウカン}ハ業^{ノリ}みて。油^{アブ}を塗^{ヌル}り栓^{ツバ}字^ジさを等^{トナシ}む。
其^{その}長官^{チヤウカン}を助^{タシ}けて仕^シふる諸^{シヨ}有司^{ユウジ}の職^{シヨク}あ^ハす。又^{マタ}書^{カキ}れ上^{ノボ}りて云^{イハ}
む。君^{キミ}は神代^{カミヨ}卷^{マキ}。臣^{ウヂ}ハそま^マふ續^{ツグ}く歴史^{リシ}の如^{ごと}し。然^{シカ}ま^もむ彼^か
枝道^{エダミチ}ハ。令^{ノリ}式^{シキ}格^{カク}律^{リツ}。ふ等^{トナシ}しく。大道^{オウダウ}を助^{タシ}る法^{ホウ}則^{スナハ}ち似^にたり。斯^カて
古事記^{コトヰ}序^シふ。故^{ユヘ}太素^{タイソ}杳冥^{ヤウメイ}因^ユ本教^{ホンキヤウ}而^{シテ}識^シ孕^ニ土^{ツチ}産^{ウツ}島^{シマ}之^ノ時^{トキ}。とある
如^{ごと}く。本教^{ホンキヤウ}を則^{スナハ}ち天神^{テンシン}ハ御教^{ミキヤウ}。其^{その}を書^{カキ}傳^{ツタ}ふとる^{コト}ガ神代^{カミヨ}卷^{マキ}。は
ま^まづ其^{その}大道^{オウダウ}の起原^{キゲン}を知ら^しむと思^{おも}む。ま^まづ神代^{カミヨ}卷^{マキ}を熟^{ジュク}々^々
讀^{ヨミ}味^ミひて。天神^{テンシン}地^チ祇^シ等^{トウ}の御所^{ミヤノ}爲^ニを明^アるべ^しハ何^{なに}る^べから^ず。
ま^まづそま^まて宣教使^{ケンキヤウシ}を設^{セツ}給^キひし。明治三年^{メイジニヤウ}庚午^{ケイブ}正月^{シツゲツ}大教^{オウキヤウ}

宣布^{ケンブ}の詔^{ミコトノ}ふ。中世^{チュウセ}以降^{イコノ}時^{トキ}有^ア汚隆^{ウラウラ}道^{ミチ}有^ア顯晦^{ケンカイ}と宣^{イハ}ひ。ま^まづ第二^{ダイニ}
此^{この}宣命^{ケンメイ}ふも。中^{チュウ}今^{イマ}乃^{ナラ}世^セ止^ト移^{ウツリ}布^フ隨^{ツグ}々^々漸^{シヅカ}々^々尔^ニ本^{ホン}都^ト大^{オホ}御^ミ固^コ體^{テイ}乃^{ナラ}
荒^{アラ}備^ビ行^{ユク}事^{コト}乎^ヤ。前^{マヘ}天皇^{テンノウ}甚^シ久^{キウ}慨^{カイ}美^ミ歎^{タン}加^カ所^{ショ}思^シ食^{シク}岐^キと宣^{イハ}ふるハ。
中^{チュウ}世^セより。漸^{シヅカ}々^々大^{オホ}朝廷^{テイテイ}ハ御^ミ後^ゴ威^イ衰^{サイ}へま^まりて。惟^{タカ}神^{カミ}大道^{オウダウ}の
隱^{カクレ}ま^もつること^{コト}を大^{オホ}ら^うり^し宜^{ヨシ}ひし。さて其^{その}大道^{オウダウ}ハ隱^{カクレ}ま^も
ま^まづ起^キ原^{ゲン}をい^いふ^と云^いふ。應^{オウ}神^{シン}天皇^{テンノウ}の頃^{キリ}より外^{ソト}固^コ子^シ傳^{デン}
ま^まる小^コ道^{ミチ}を言^{コト}痛^{ナク}く沙^サ汰^{タイ}あ^つる書^{カキ}を讀^{ヨミ}見^ミる^とはと^は始^{ハジ}りよ
り。其^{その}字^ジ善^{ゼン}物^{モノ}と思^{おも}ひ。ま^まづ佛^{ブツ}ハ法^{ホウ}をも上^{ノボ}りあ^まめ^めの^と。思^{おも}ひ惑^{マド}
ふる輩^{ハイ}ハ世^セ子^シ多^タくあ^まり来^キま^りし。其^{その}本^{ホン}あ^る惟^{タカ}神^{カミ}大道^{オウダウ}
を辨^{ワカ}へま^まづは輩^{ハイ}ハ。稀^{スギ}く^{なり}来^キま^りし^がら^は此^{この}過^{スガ}み^ぞあり^しは。

本より外、罔々とす。調貢奉る夫とハ既く皇神等此御定を
ある事あまむ。其物どもを以て。皇罔此祐と申るハ。勿論あ
きども。善と惡や字よく撰び多。取捨せざてハえらぬ事
ぞの。かゝる事ありむ。神の御稜威も。君は御稜威も。稍々子
衰牙ましお。幽子ハ惡鬼邪神のよ。處得て大神僭ひ
顯ふを亂臣賊子時を得。暴逆侮慢は徒我意を振ひて。遂ハ
保元平治より此方。元弘建武は。大乱を醸し。淺間を犯世の
形勢とはあざ。其を神の御稜威君は御稜威といふ牙ど
も。これ時ハ輔弼の臣等ハ。正と不正ハよすて。高くも短く
め。盛も衰も申るめ此あまむ。況て士民ハ時政ハ従ひて。善

くも惡くめ。直りも曲すを申るものぞ。けきハ中昔よりの。
大朝廷ハ御衰を。全く時の大臣以下上ハ在て。道を説者其
大本字忘き。枝道は以て。惟神、大道ハ上り立たる故ある夫
と炳然し。大抵人の力ハ限りあるもけき。左ハ引は時を
右を疎く。彼字明も申む此ハ暗くなるが普通の習ひぞ
の。其ハ大朝廷ハ御衰よす近世も。名將勇士や稱き一人
人ハ行を觀るハ。稀々大義字立たるもあまむ。其も時
の弊習を脱し得ず。大抵ハ私見を專りて。他の領地を
掠奪せる張本人ぞ多かす。又忠臣義士と呼きも。大
方ハ其張本人ハ爲す。力字竭し身字抛ち者此を以て。眞

此名將勇士忠臣義士といふハ。甚稀イハレなり。是らニホ大義
名分を得知らぬのら此過アタリス。斯て大教宣布詔ミコトノコト。宜明ヨシ治教
以テ宣揚ノボ惟神之道也ト。宣ノボ牙ノボるも全く中昔より此。惡風俗を
矯直タメし。根を堅を給むやの。尊タカま大御心をミコトノココロ。宣ノボひ出させ給
ひし。然るも當今和漢此學者等ノ此説を聞ク。御代々の式
法を以て道と心得て。真マコト此道の本モト源ノチなむ。味得ざる故ユ。或
も五倫五常あざラ。言コト痛イタく設テ。藥を失ナク牙ノボる。能書シの如き道
小泥コナニ惑トへる輩ノ此。何の道ノくまニ此道と。健タカ々タカしく言コト誓シるを
羨ウラヤミて。剩ウラヤミ牙ノボ古學ノ此徒ノ至ニ迄ニ。其時々ノの法則ノなニあるせる書ノ。
讀クむハ此とを以て道を學ぶハ此と云フひ。まニ甚イハレトニ此ノ至ニてハ。

歌物語を以て。敷島此道ノ此道ノと言フ誓シるも。みな道と云ふ名目
字假借カて。名聞榮利を求る戲事ハ此みあり。如何ノ愚なる事
の極ノ之ノ外ニらニ交フや。今しも萬箇の物ノ。採用トさせ給ふも。之ノ
箇用を祐タメる料カネもこそ何ノき。けらにニ外ニ箇の道ノを。求給ト
むとハ外ニ箇ノらニ。故ニ大教宣布ノ此詔ノも。惟神之道ノ此宣揚ノも
誇ホくハありて。彼外ニ箇ノみて言痛イタく云フひ誇ホまる。枝道ノ此主ノと
宣揚せよとの文ハ。一句もあるハとあし。かをニ本末を
取違ふるハ此やありまニげて道ノを天皇より授給トふが皇神等
此御定をハ此まニバ。天下ノも外ニ箇ノまでも盡ク。舉テて神習フまニげく。
まニと調貢ミツギを下ノよニ奉ルるが。神代ノ此御定をハ此まニバ。天下ノハ内ノ

外此隔あく。心を同一して。多く調貢奉るべし。吾大君ハ天於
 璽ヒラシの三種ミクサ其神寶カミタカラを受傳ウケツタ牙。皇御孫ミコノミ通々藝命ゲノミコトより次々。幾萬
 代をふとも。天照アマテラス大御神オホミカミの日眞名子ヒマコ。只一代と仰ぎ奉るべ
 き。謂き字よく辨了オトシラシて。各自其職業ワザノクを勉勵イソシ之。怠慢オソカシあやあく。
 猶豫タユタユことぬく。一向ヒトカタ子仕奉るシタマフべしもの小あむりあり。か
 く云ふ時を。明治廿六年と云ふや。一は六月なり。

彫工 木邨嘉平

大乃本論跋

我邦中祿乃女メノメノメを既ス乃ナラフ著ツクきニ時トキ。大乃本論オホノホンロンに於
 けり。不フ書シきニもモ神曲カミウタは中ナカなる物モノの以ヨリ神カミの
 心ココロを去イ書トク日ヒ考カウ考カウめル也ナリ。先マ招サウわルるノ説セツ
 也ナリ。本ホン論ロン直チキしテ。神カミの神カミも本ホン論ロンをてテ。小コ人ヒト
 氏ウヂは通トウく説セツ示シし。神カミ智チ少シ道ミチ小コ我ガ我ガもふけむ
 と。海ウミ右ミダの神カミ乃ノ振フリ起キしテ。此コノ道ミチ乃ノ物モノさラむシ
 是コトも也ナリ。功イサナも心ココロむシけり。我ガの我ガ
 也ナリ。其コノ中ナカは士シ人ヒトの心ココロも。さラむシ也ナリ。説セツ

の新^{マレ}きも。あまふも。更^イあり。甚^イ老^イが。さう。新^{マレ}
 し。考^{コト}も。さ。由^ヨ少^シか。種^シ種^シ深^シ深^シ。あ。命^メ。た。あ。は。
 産^{フルキトキダト}説^{コト}り。あ。は。因^{ヨリ}徒^レ。ま。は。洗^ト。い。や。い。人^{コト}。は。は。不^レ
 室^{カシ}み。あ。ふ。も。あ。る。命^メ。ま。あ。は。ま。ま。人^{コト}。は。あ。も。も。忌^レ
 と。素^ソ。さ。い。志^シ。と。あ。あ。と。い。固^{コト}。く。印^{イン}。願^{ガン}。く。印^{イン}。と。飛^ト
 ま。と。さ。さ。た。な。ふ。長^チ。淵^{エン}。の。勢^イ。中^チ。一^{イチ}。利^リ。一^{イチ}。あ
 飛^ト。海^{カイ}。と。外^ウ。書^{ショ}。は。と。亦^オ。就^{ジュ}。く。論^{ロン}。く。亦^オ。亦^オ。と。い。は。
 く。置^{オキ}。く。も。風^{フウ}。の。物^{モノ}。さ。び。す。る。心^{ココロ}。は。い。ま。も。先^マ。さ。を
 ち。く。の。毛^{モウ}。ハ。天^{テン}。地^チ。の。理^リ。を。あ。ら。う。極^{キョク}。一^{イチ}。と。も。あ。は。

の極^{キョク}。あ。ら。う。の。あ。ふ。事^{コト}。人^{ヒト}。は。極^{キョク}。き。あ。ら。う。と。事^{コト}。を
 の。一^{イチ}。さ。も。持^{モチ}。ら。う。皆^{みな}。は。限^{リミ}。く。も。此^{ココ}。少^シ。く。け。め。を
 い。く。命^メ。業^ノ。の。壹^{イツ}。長^チ。と。ま。へ。に。お。く。人^{ヒト}。一^{イチ}。心^{ココロ}
 じ。は。業^ノ。業^ノ。の。功^{コト}。を。依^ヨ。り。は。と。地^チ。は。理^リ。を。も。台^{ダイ}。ら
 小^{コト}。怪^ケ。箱^{コト}。中^{ナカ}。の。事^{コト}。運^{ウン}。世^セ。の。秘^ヒ。事^{コト}。さ。へ。探^{サグ}。出^デ。せ。新^ニ。好^{コト}。事^{コト}
 一^{イチ}。も。飛^ト。歩^フ。は。た。た。大^{ダイ}。ふ。思^{オモ}。命^メ。の。及^キ。を。事^{コト}。限^リ
 一^{イチ}。際^{サヘ}。魁^{ケイ}。は。初^{ハジ}。と。初^{ハジ}。く。さ。み。く。古^コ。々^々。は。法^{ホウ}。を。徹^{トウ}。く。
 万^{マン}。物^{モノ}。は。理^リ。を。推^{オシ}。究^ク。む。時^{トキ}。ハ。高^{タカ}。さ。い。山^{ヤマ}。も。蒼^{ソウ}。泥^デ。と
 了^{ナリ}。成^{ナリ}。て。天^{テン}。を。も。た。飛^ト。く。ほ。く。お。い。地^チ。を。ま。さ。く。さ。と

けぬ久。深くさし難く考ふ家許あり。積り
形も甲斐もらむと云。孝人の付る者。殆ど皆の
けし。つねぬ。善くめつる。道者も。出来ぬ。おぼ
ろしく。長家の物語。びとを。公海も。あつた。け
や。おぬ。ぬ。思ふ。おぼ。は。其。説。平。後
と。裁。予。之。の。者。を。書。ら。ば。し。い。女。人。は
様。を。待。つ。よ。ま。ら。せ。ぬ。法。の。七。と。衆。を。あ。り。し
け。一。月。神。宅。は。大。宅。目。録。旅。中。教。正。正。六。位。四
中。頼。齋。

彫工 木邨嘉平

